

Title	内藤光備著 俵ふるひ
Sub Title	
Author	幸田, 成友
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1948
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.41, No.1/2 (1948. 2) ,p.19- 59
JaLC DOI	10.14991/001.19480201-0019
Abstract	
Notes	資料
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19480201-0019

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

価値として實現しうる前に諸使用価値たる實を示さねばならぬ。けだし、それらに支出された人間の労働は、それが他人にとつて有用な形態で支出されてゐる限りでのみ計算に道入るからである。ところが、それが他人に有用であるか否か、従つて、その生産物が他人の諸欲望を充たすか否かは、ただ諸商品の交換のみがこれを證明することができる。」(二八二—三頁) また、同じく第三章第二節流通手段の箇所で「市場の胃の腑」の問題として提起されていることも記憶されることであらう。(三二七頁) なおこゝから商品価値を規定する「社会的必要労働時間」の「社会的必要」を以て必要の方面をも顧慮せるものと看做す見解がうまれやすいが、その妄見たることは再説するまでもない。かゝる妄見においては価値(市場価値)の成立と価値の實現(市場価格の成立)との間の過程上の差異——一方は生産過程、一方は流通過程——が無規され、又使用価値と価値、有形的労働と抽象的労働との對立が抹殺されそれが「調和」されてしまふ兩者はそれぞれ統一物であつて同一物ではない。統一は對立の上に立ち「調和」とは異なる。しかもかゝる謬解は今日に至るも跡をたゞぬ。(高田保馬氏著「労働価値説の吟味」、四五頁。高橋正雄氏「マルクネ」『日本政経研究』昭和二年七月、六二頁) 奇とすべきである。なお安部隆一氏の使用価値即物観(本論第一節註一参照)の非辯證法的性格よりしては到底市場価値の實現過程における使用価値

との對立・統一は理解されることはできぬ。これ又、一面的謬見とすべきである。一九四八—一九四九

俵 ぶ る ひ 内藤光備著

解題 幸田成友

解題

本書は林若吉氏の遺書賣立に際し、自分の入手した半紙判寫本で、本文三十一丁前附一丁後附三丁計三十五丁より成る。本文は漢字片假名交りで毎半丁十四行、一行二十五六字より三十三字に至る。文字拙劣言ふに足らずといへども、本書脱稿後僅々二年餘に抄寫せるものなることは、轉寫の都度に増加の傾ある誤謬を少からしめたと稱して宜からう。筆者は涼竹陣人とあるだけで氏名未詳、鶴府城の南麓松月亭で執筆せる旨識語に見えるから、或は羽前國鶴ヶ岡の住人か。

著者内藤光備字は子興は柳がもとのあるじと稱し、御代官の手代を職としたことは、本書の序跋によつて容易に知られるが、それ以上の経歴は不分明である。同人の自序に「申江の吏隱」とあり、申江は地名らしく思はれるが、それが今の何れの地に當るか考へ得ぬ。

著者の字は子興であり、さうして柳がもとのあるじに漢字を宛てれば松月亭となる。筆者涼竹陣人が字を子成、號を松月亭といつたことは、識語の末にある三箇の朱印の第三と第一とによつて證明せられる。兩者の間に何等かの關係がありはせぬかとの想像がそれからそれへと馳せる。然し我等は妄りに想像を逞しうしてはならぬ。飽くまで史實

に即いて行かねばならぬ。

卷末にある崎陽縣吏金井紀俊の跋に、著者呼んで我僚友と稱してゐる。崎陽は長崎をいふ。紀俊明治二十年長崎年表三冊を著した金井俊行と何等かの關係あるに相違なしと推定し、家藏の縣令集覽を取出し、長崎御代官高木作右衛門の條を見たら、長崎詰の手代中に金井八郎、金井清之助の氏名が掲げられてゐる。モは元々の略符で、上位にある手代を指し、さうして清之助は長崎年表の著者俊行の通稱といへば、八郎清之助は親子で、跋文の撰者紀俊はこの八郎の諱に相違ない。然し自分の所藏する縣令集覽は慶應三年及び四年出版のものだけで、全巻を通じ内藤光備に相當する者は見當らない。彼は依ふるひを脱稿した安政三年から慶應三年までの間に退職若しくは死去したものであらう。一體舊幕府の御郡代御代官の氏名任地は、年々出版の武鑑卷三によつて搜索し得るが、手代のやうな微官は省略せられてゐる。縣令集覽はこの省略せられてゐる部分を知るに必要缺くべからざるものでありながら、帝國圖書館の和漢圖書名目録初編から近年出版の五編までを搜索しても一部も無い。僅に東大附屬圖書館和漢書名目録増加第二に文久三年版を一冊見出したのみであるが、之も大正の大震災に焼亡したらう。日本に居て日本のことを研究するのに、版本になつてゐる資料の搜索にさへ、徒に時間を費さなくてはならぬとは……

その書を読んでその人を知らざる時は、理解と興味とを缺くことは言ふまでも無い。自分は本書を手にして先づその識語及び序跋から著者に關する何者かを得んとして、前述の通失敗した。殊に焦鶉璞の序文については撰者の氏名さへ讀みかねたことを告白する。字典を再三引いた後、漸く焦は鶴に通ず。鶴鶉はさゞき、又はみそさといと稱する小鳥の名と知つた。偶々本書に佐々木藏書といふ朱印が捺してあるので、氏を佐々木名を璞といへる者の序文であらうと推定した。但し之は全く一種の聯想で、この藏書印が序文撰者のものでないことは勿論である。

著者の周圍から著者を知らうとした間接手段は無効に歸した。この上は直接手段を執り、著者の筆端から著者を知るより外はない。自分は一段の緊張を以て本書に對した。さうして得た所は次の如くである。

(一) 著者の父は彼同様御代官の手代を勤めた。

我カ父祖ノ勤メラレタル早川縣令ノ稱八郎 左衛門勤功勳徳モ……一六ノオ

早川八郎左衛門名は正紀、美作備中の御代官で、寛政七年美作國大庭郡久世村に典學館を、同十一年備中國小田郡笠岡村に敬業館を創設した。正紀任に在ること十餘年、享和元年江戸に遷任するに當り、郡民境を諭えて送るもの雲の如しとあるので、その人望が思ひやられる。文化五年十一月没す年七十、日本教育史料卷七、七九八―八二二頁この良宰の配下にありし著者の父の通稱諱の不明なるは口惜しい。

(二) 彼は手代の家筋に生れながら、手代役を勤めるに先立ち蝦夷地に行役し、擇捉島に在陣したが、東西蝦夷地が松前家へ還附せらるゝに及び、歸東の途に就いた。

僕始メハ蝦夷ノ地ニ行役シ、後御代官ニ手代トシテ勤勉數十年……四ノオ

文政ノ始松前家へ舊領一圓返シ下サレシトキ、僕ハ東夷ノ果エトロフ島ニ在陣ジテ、彼ノ地ヲ同家ノ役人へ引渡シ引拂ヒシガ……九ノオ

寛政十二年幕府は東蝦夷地を暫定的に松前家より上地せしめ、享和二年七月暫定的を改めて確定的とし、その間及びその後において種々畫策施設する所があつた。委細は休明光記に譲つて此處には省略する。按ずるに著者は弱冠の頃、北地經營に關し、某年東都より派遣せられたる吏員の一隨行者として任に赴いたのであらう。さすれば彼の氏名が休明光記に掲載されてゐぬからといつて別に怪しむに足らぬ。それから同人が擇捉島に赴任したは何年か、これま

た不明、文化四年露人の同島亂暴以後と假定するだけである。但し東西蝦夷地が松前家に還附せられたのは文政四年十二月で、同家の役人に事務引継を了した後、彼は同島を引拂つたのである。これから彼の手代生活が始る。

(三) 彼は關東の御代官平岩家に勤務した。

僕三十年ノ昔、關東ノ御代官平岩家ニ稱右膳同勤タリシ館雄次郎ハ……六ノウ

俵ふるひは安政三年の著述だから、それから三十年を遡ると文政九年となる。勿論三十年は大數であらうから、文政の半頃前後と解すべきだ。館雄次郎名は機、字は樞卿、柳灣と號す。新潟の人で詩集柳灣漁唱三篇がある。簿書・獄訟・錢穀の間に一生を埋没しながら、自若として詩を喜んだは大いに推獎に値する。漁唱第一集は文政四年彼が六十歳を祝し、その近體詩百二十首を三女婿が摘刻したもの故、柳灣と同勤たりし子興は恐らくは之に目を寓したのであらう。自分は柳灣漁唱三編を所藏しながら、柳灣の人物については殆ど知る所がなかつた。子興によつて教へられ、新なる興味を以て同書を再讀したことを感謝する。

(四) 出羽國寒河江の陣屋に在勤した。

僕ガ在勤シタル出羽ノ寒河江陣屋許ハ、榎西楯北楯南ノ三村ニテ一萬石ノ檢見村ナリ……七ノウ

在勤の年代は不明。但しこの前文に同國村山郡栢倉附の公料二萬石餘が、文政年間私領に渡つた所、公料の時代には在陣の手代僅に三人で事足りたに反し、私領となつてから役人二十餘人を要し、従つて郡中の入用も増加したといふ記事がある。之は著者が寒河江在陣中に目睹又は聞知したことと認めて差支なからう。

(五) 天保三年夏彼は御廻米積立として出羽國酒田湊に出役、同所今町の遊女屋三十軒を破壊せんとして上陸せる紀州船の乗組員數十名を取押へ、領主酒井侯から重賞を受けた。

僕天保壬辰ノ夏、羽州酒田湊へ御廻米積立トシテ出役ノ折カラ……九ノオ

これは著者自身相應得意とする事件であつたと見え、「此一件別記アリ、略之」と註してゐる。領主酒井家は鶴ヶ岡に在城してゐるが、或は本件以來同家と著者との間に深い關係が出来し、鶴府城即ち鶴ヶ岡に住する松月亭主人が本書を手抄するに至つたものではないかと推量する。

(六) 天保年間彼は長崎御代官所に赴任し、勤続するもの十餘年、その間進んで元となり、御家人に准ぜられ、また島津・細川・鍋島等九州六大諸侯の館入となつた。

僕崎陽ノ御代官所ニ勤務セルコト十餘年……二七ノオ

僕モ長崎勤役中元ニ命セラレシ時、鬩斗目白帷子着用若黨召シ連レ等ノコヲ許サレ、彼地奉行所并御米藏等へ御代官ノ名代ヲ勤メ、御勘定方ト立會ノ場所へモ出勤、去ル天保十二年、文恭大君前將軍家齊薨去ノ節ハ、先例伺ノ上、御家人ニ准ジ、七日ノ間長髪ニテ出勤シタルタメシモアリキ……二二ノウ

僕ハ藝ナシ手代ナレド、長崎勤役中鹿兒島薩摩 熊本細川 佐嘉鍋島 福岡黒田 唐津小笠 原侯嶋原 松平主殿侯 六家ノ諸侯方へ館入スルコト……七ノオ

天保五年西國御郡代鹽谷大四郎役替の命あり、同人支配地は一圓長崎御代官領とあつたが、その節郷村受取のため著者等は御郡代の陣屋所在地豊後の日田に在陣した二七とあれば、著者の長崎赴任は酒田湊に出役した天保三年から日田在陣までにあつたに相違ない。また著者は天草陣屋の引受を命ぜられ、在任勤役すること數年一四と言つて居るが、天草島は御郡代の出張であるから、長崎勤務の十餘年中に數ふべきであらう。

長崎を去つてからの著者の經歷は全く分らない。本書の自序に申江の吏隠とあるので、序文を書いた安政三年には

俵ふるひ

舊態依然手代を勤めてゐたものと推測せられるが、申江が不明である限り、搜索の手の附けやうがない。

要するに内藤子興は實務の人であつて文筆の人で無い。然るに彼をしてその晩年の精根を依ふるひの一書に集注せしめたは何のためか。彼は御代官手代を自己の天職と信じ、一生を捧げて悔ひざりしだけ、この役儀に對する先哲徠・春臺・竹山三家の誤解に著しく憤慨し、一書を著して之を粉碎せんと試み、さうして彼我の言ふ所孰れが是なるか、讀者宜しく依を傾けてその内容を檢定せよと冀ひ、題して依ふるひといつたのである。

本書に引用してある徠の意見は政談卷一改_二武家旅宿之境界_一制度之事、卷三代官之役之事、御役與力ヲ頭之心儘ニ容ル事、并ニ御旗本諸役人ニ被_二召出_一之事の條に、春臺の意見は經濟錄卷五食貨の部に、また竹山の意見は草茅危言卷二奉行代官の條に見え、孰れも數行乃至十數行に足らぬ短文なるに反し、著者は滔々數萬言を以て之に報いてゐる。従つて三家の論旨が局部的斷片的なるに反し、著者の所説は湊合的連續的であり、引用した幾多の例證中には新しく吾人に教へる所が多い。由來地方何々と題する書籍は相應あるが、幕府直轄領の地方であるか、諸侯領の地方であるか、それさへ明記せられず、前者を支配する御代官及び手代の地位俸給・職務・任免・人物・賞罰等吾人が切に知らんと欲する諸點に至つては全く之を缺いてゐる。今度機會を得て本書を公刊した趣旨は、幾分なりと前記の缺陷を補充せんがため、必ずしも三家に對する子興の駁撃を披露するためのみでは無い。

論争は得て激烈に陥り易い。卷末漢風學者に對する攻撃は一讀甚だ痛快であるが、記載の事實を全部眞實なりとは明言しかねる。

繰返していふが、著者は文筆の人でない。國語に宛てた漢字に妥當ならざるもの、送假名及び假名遣の誤謬矛盾等訂正を要する分も少からずあるが、現在は文意を達する以て主眼とし、成るべく舊態を存した。(昭和二二・六・三〇)

叙

道不同不相爲謀、信哉言也、三先生學識文章曠絕百代、不待論也、然而其於幕府吏事也、極口醜詆、不知自他人觀之、則言多不當者、適足以取狂妄之名耳、信哉言也、内藤君子興嘗于役東西、達鍊事體、衆所知也、屬日君讀三先生所著書、而見其掣肘矛盾者、不甚妙矣、因著一書駁焉、名謂_レ箴、不留非、余受讀、凡數千言、鑿々有據、其箴所蓄不易測也、三先生烏得_レ不_レ鬼哭於泉下乎哉、吁、余輩不可不戒也、

丙辰仲夏

焦鶉璞撰并書

自序

耳の及ざる處は、師曠が聰といふともきこえずしてありなん、目のおよびざるところは、離婁か明といふとも、見えずして有なまし、俵のうちには有ところの米性をしる事いかん、彼がたはらのうちをばわれよく是をしらず、我たはらのうちをばかれも亦能しるべきところにあらず、不如其米のよしあしを言んとならば、彼をも是をも依ふるひして、其よしあしは米見の鑒定に任せなんこそよけれ

安政丙辰首夏

申江吏隱柳がもとのあるし述

欲生徂徠方政談、太宰純方經濟錄、中井積善方草茅危言、右三書ノウチニ御代官手代ノ身行ヲ貶駁誹謗スルノ各數
 箇條、僕モ亦之ニ對シテ云ヒタキコノ數々アレバ、默止モエヤラズ、彼ヲ抄シ是ヲ記シテ、其志ヲ述ル事左之通り、
 政談ニ曰ク、當時ハ小身者ヲ御代官ニ仰付ラレ、其身ハ在江戸ニテ手代ヲ差ツカハスユヘ、種々ノ奸曲アリ、又御代
 官其所ニ住ムトモ、小身ナルユヘ公事ノ裁許モナラス、小身ニテ武威ナケレバ、盜賊ナドヲ鎮ムルノナルマジキ也
 云々、當時ハ輕キ手代類ノ者ガ、所々ニテ吟味ヲスルユヘ私曲ノミ多シ、代官ト云役ハ至テ重キ役也、今ハ地方ノ支
 配トナリ、小身成モノヲ申付、シカモ其下司ハ手代下稱シ、殊ノ外ニ賤シキ者ヲ付置キ、年貢取立ヨリ外ニ肝心ナル
 一無之ト心得ルコト、以ノ外ノ事也、其身立身ノ望モナク、下劣ナル役義ト云コニ成テ、然モ小身ナルユヘ、オノヅカラ
 奸曲ヲシテ御仕置ニ逢人モ絶ヘヌ也云々、「願クハ二三石位ノ人ヲ申付御代官ヲサシテ云也、役義ノ名ヲ替ヘ、下役ニ代官グラ
 キノ人ヲ申付、武備モオノヅカラ備ハルヤウニシ、刑罰ヲモ輕キコトハ其所ニテ執行ハセ、民間ノ治メヲ第一トシ、農
 業ノ筋ヲモ民ノシラヌコトアルヲバ、コレヲ教ヘ、川除堤普請ノ類ヲモ申付、盜賊博奕ノ類邪宗邪法ノ類ヲモ是ヲ抑サ
 スベシ、又與力御徒等ノコトヲ論ジタル箇條ニ、働キ業ヲ好マザル生レ付キナラバ、手跡ニテモ算用ニテモ習ハセ、御
 代官ナトニ付ケツカハシ、手代ノ代リニシテ隔タル國ヲモミセ、山川地ノ理ヲシラセ、田舎ヲモ走リ歩キタラバ、當
 時親ノ懷子ニテ御城下ニテ育チ、ナンノワケモシラヌアホウニハマサルベシ、
 經濟錄ニ曰ク、代官ノ秋成ヲミルニ、今ノ俗ニ毛見ト云、代官ノ毛見ニ往トキ、其所ノ民數日奔走シテ供具ヲ營ミ、
 道ヲハラヒ、館舎ヲ洒掃シ、前日ヨリ種々珍膳ヲ調ヘテ其來ルヲ待ツ、當日ニハ庄屋名主ナド云モノ、人馬肩輿ヲ牽

テ、境迄出迎フ、館舎ニ至レハ種々ノ饗應ヲナシ、其上ニ進物ヲ献シテ其歡樂ヲ極メ、手代ヲハ云ニ不及、僕從ノ
 至テ賤キモノ迄モ、其品ニ隨ヒ、夫々ニ金銀ヲ贈ル、如此スル其費ヘ幾許ト云コトヲ不知、モシ少シモ彼ラガ心ニ不滿
 アレハ、色々ノ難題ヲ以其民ヲ苦シメ、其上ニ毛見スルニ及テ、下熟ヲ上熟ト云テ免ヲ高フス、モシ饗應ヲ厚クシ進
 物ヲ貴クシ、從者ノ賤奴迄モ賄賂ヲ多クシ、彼ラガ心ニ満足スレバ、上熟モ下熟ト云テ免ヲ下クスル也、是ニ因テ里
 民萬事ヲ關テ代官ノ悅ブベキコトヲ計ル、代官ノ毛見ニユク、其利甚多シ、從者迄モ數多ノ金銀ヲ取ル、是皆上ノ物ヲ
 盜ム也、毛見ノ時ノミニ非ス、平日モ民ノ許ヨリ代官并ニ小吏ヲニ賄賂ヲ輸フ事頗ル夥シ、故ニ代官ノ輩皆小録ナレ
 尺富封君ニ埒シク手代ヲニ至迄、僅ニ三口ヲ養フホドノ俸ニテ、十餘口ヲ養フノミナラズ、距離ノ金ヲ蓄テ、終ニハ
 與力又ハ旗本衆ノ家ヲ買取テ華麗ヲキハムル也、如是代官ノ私曲ヲナシ、民ノ代官ニ賄賂ヲ輸フ狀ハ、純ムカシ久シ
 ク田舎ニ住テ、親シク見キ、シタルコト也、是偏ヘニ見取ヨリ起レリ、民ノ痛ミ國家ノ害ト云ハ是ナリ、定免ナレバ每
 年ノ毛見ニ不及、定レ免ノ如ク奴納スルコト相違ナシ、然レバ民ヨリ代官ニ賄フコトモナケレバ、小民ノ役使セラル、
 コトモナク、金銀ノ費ルコトモナキユヘ、民ノ苦ミナシ、故ニ少シ高免ニ取テモ、定免ハ民ニ利アリ、毛見ト云コトナケレ
 バ、代官ヲ置クニモ不及、代官ニハ口米ト云フコト有テ、許多ノ米ヲ上ヨリ賜ハル、代官ヲオカザレバ口米出デズ、是
 亦國家ノ利也、今世ノ田租ノ法定免ニ勝ルコトナシト云ハ是也、大聖人禹ノ法ナレバ言フモ愚ナルベシ、
 草茅危言ニ曰ク、奉行職ノ屬吏ニ與力同心アリ、代官ノ屬吏ニ手代アリ、皆地付ノ身ニテ掌故ニ熟シ世機ヲ諳スルユ
 ヘ、因縁シテ姦ヲ營ムコト限ケシ、何レモ不學無術ナガラ、タマニハ濃厚實直ナルモアレモ、往々才ニ短シ、才能アル
 ハ奸智逞マシ、行義才力揃タルハ至テ稀ナルベシ云々、右ノ二職ハ重任ナルニ、祿秩ハ甚輕シ、ソレユヘ其人ニ譜代ノ
 家來トテハ庶カニテ役人足ラズ、職任ヲ受タル日俄ニ抱入アルユヘ、ソレヲ望ンデ住込モノニ、循良清廉ノ人ハ少ナ

ク、大カタハ姦詐貪婪ノ徒」ナリ云々、奉行職ハ三千石以上七千石迄ナルベシ、代官職ハ千石以上二千石迄ナルベキ歟、自分ノ家來ヲ屬吏ニ立ナラバセ、日々其懸引ヲ熟察シ、姦ヲ容ルニ地ナカラシメ、或ハ手代ヲ召抱ヘズ、我家來ヲ以其代リヲ務メサスルカ、又ハ中ニテ頗ル淳良亡害ト見ユル手代ヲ一兩輩抱ヘ、其餘ハ皆ヤメテ可ナルベシ、右ハ三子論説スル處ノ文面ヲ摘ムト如此、イツレモ同意合躰ノ毒口謗訕、毫毛忌憚ル處ナシト云ベシ、是ラノ徒御代官手代ニ對シ、何ノ遺憾アリテカ、斯マデ人ギ、ワロキ謬閣^{ワカシヤク}トモヲ錄籍ニ書トメ、臭ヲ千載ノ下ニ流傳セントハモクロミケルニヤ、由テ生ズル處ヲ知ズ、僕始メハ蝦夷ノ地ニ行役シ、後御代官ニ手代トシテ勤勉數十年、カネテ此三書ヲ閱ルニ、甚心ニコ、ロヨカラズ、今其人ハナシトイヘ、カバカリノ耻辱汚名ノ世ニヒロゴリ殘リシヲ、其マ、見スゴシ置キナンコモ、アマリニ殘悔ノヤルカタナサニ、聊思フ旨ヲ書ツマリ、ソノ冤ヲ清メントス、是ヲシモ忍ブベクバ、イツレヲカ忍ブベカラシヤ、先ツ此惡言ノ發端ト云ハ徂徠也、」徂徠ニ尋テ其意ヲ追増シタルハ門人ノ純ナレバ其口眞似モ縁据^縁ナキハ非ズ、但積善ハ遠クホトボリノサメタル世ニ生レナガラ、其存念ヲ受ツギテ、尾緒ヲ加入シタルハ何ノ意ゾ、殊更奉行職ハ三千石以上七千石迄ナルベシ、代官ハ千石以上二千石迄ナルベキ歟ナドハ、前ニ皆徂徠ガ云並ベオキタルヲ、己ガ思ヒ付ラシク書載セタルモ、未熟不手際ノ尻馬乗ト云ベシ、摠ジテ農ノ事ハ老圃ニシカズ、船ノコハ船頭ノ知處、其至レルニ及デハ、聖人トイヘ知サル處アリ、手代ノ司役境界ヲ紙上ノ空論ヲ事トスル迂儒ノ、争デカ窺ヒ知コヲ得ン、抑御代官手代ヲイカナルモノト思ヘルヤ、小吏賤官ハ素ヨリ差知レタル身ノ上不及言、手代トサヘ云ヘバ小身微俸ナルユヘ、私曲賄賂ニ拘ルトノミ思ヘルハイカニゾヤ、夫レ手代ノ身分ハ輕シトイヘ、大政ノ片端ニモ拂リ、公義^{公義}ノ御爲筋ヲ第一トシ、忠勤ヲ勵ミ、正道ヲ明カニシ、百姓ノ歡苦ヲ察知シ、邪曲ヲ判斷スルヲ以職業トシ、又止事ヲ得ザルノ時ニ當リ^{五子}テハ、大切ノ人命ヲモ、一筆ノ先キニ殺スノ法モ有ルゾカ

シ、是皆我黨ノ司役トスル處ノモノ也、去レバ其掌ル處、彼ラガ如キ有名無實ノ死物ヲ以物種トシタル不用ノ用ニ非ズ、苟クモ今日ノ生物ニ對シテ、臨機應變其圖ヲハツサ、有用ノ用ヲ以テ本務トスル、ソノ差別雲泥萬里論ヲ待ズシテ明カナリ、又御代官ヲ小祿也ト云ハ、其昔源九郎義經ヲ賴朝ノ御代官トセラレシナド舊記ニ見エタルヲ目アテトシテ彼レト是トノ場合、チガヒアルヲ以テノ言ナルカ、當時モ朝鮮人ナドハ、奉行ヨリ御代官ヲ重職ト心得尊敬スル由、字義役名ニ於テハ左モ有ラバアレ、假令小祿小官タリ、其役義ヲ命ゼラレ、其職掌ニ相應スルニオヒテハ、小祿タリトテ何ノ妨カアラン、大祿モ小祿モ共ニ時勢ノ然ラシムル處ニシテ怪ムニタラズ、殊ニ御代官ノ御役ニ於テハ、自餘ノ御役人トハ差別アリ、其支配高ニ准ズルノ格式アリテ、持高ノ多少ニ不拘、大名ト縁組ノ例アリ、近クハ長崎ノ御代官高木氏へ、豊後國日出ノ城主木下侯^{五萬}ヨリ息女ノ嫁娶アリ、高木家ハ持^持高纒ニ百石ノ小祿也トイヘ、僕ガ勤役中天保年間ニハ、日田郡代鹽谷君御役替ノ跡、一圓御預所ニ命ゼラレ、從來ノ奉地ニ合シテ兩肥筑前兩豐日向六國ノ内、十五萬石余ヲ支配セラレタリ、大名トノ縁組イハレナシト云ベカラズ、是ラモ重職ノ名殘ナルベシ、江州ノ御代官多羅尾家ナドハ昔年先代ノ領地ナリシ數萬石ノ地方ヲ、放有テ公義へ召上ラレ、後支配所ニ命セラレテ、今ニ至ル迄代々是ヲ支配セラル、由、是ラハワケテ由蹟歴々ノ大家ト云ベシ、又小祿ヲ以勤ルニハ、小祿ノ手段掛引不虞ニ備ルノ用意法則モアリテ、一切ノコトニ手ヌケ差ツカヘ有コトナシ、譬ヘバ反逆人一揆徒黨ノ者アリテ、其支配所ノウチ、不時ニ千萬人蜂起騷動スルコトアルトキハ、近隣最寄ノ大小名へ御代官ノ印書一封ヲ飛バシレバ、即時ニ召捕ノ人、數ヲ差向ケラル、ノ手配アリ、其他臨事非常ノ指揮方便、コトクク遺漏アルコトナシ、又手代タル者ノ職事ニオケルヤ、天文、地理、政事、律令、文武ノ兩道、神儒佛ノ三教ハ言フニ及バズ、測量、算勘、醫術、水練、書畫、茶番ノ式法、其餘些細ノ技藝、博奕盜賊ノ所爲ニ至迄モ、一切コレヲ辨別シ、ヒロク學ビ審カニ問ヒ、上、王公尊貴

ヨリ下、萬民卑賤ノ性情ニ互リ、百鍊千鍛ノ功ヲ積ムニ至ラザレバ、手代一人トハ云ヒガタシ、勿論、藝ニ藝ニテハ決シテ手代役ハ勤メガタシ、其ツトメガタキ子細ヲイカニト云ニ、些口廣キ申分ナガラ、忝クモ、一天ノ君ノ行幸ノ供奉ヲ始奉リ、御所御用及ビ御普請掛、將軍家御上洛、日光御社參御用掛、諸侯方ノ國替領分替城請取渡、諸家ノ詰米改、朝鮮人來聘、國役取立、御國繪圖調、御貸附等ノ御用向ニ至迄モ、其下流ニ居テ百般ノ御奉公ニ關ラザルコトナシ、其司役トスル處ニ於テハ、或ハ關八州御取締、論所地改、傳奏屋敷請、唐阿蘭陀御用物掛、兵糧掛、石原家高木奉行等御備場掛、長崎御備場臺場等ニ手代ノ掛リ分ケアリ、是ナリ御備場掛、江川家ノ手代ニ御鐵砲掛アルノ類是ナリ又ハ地方、公事方、檢地、檢見等ノ吟味物ニ付テ、諸國へ出役セラル、處ノ御役人方ヨリ、手代ノ人撰取人ト云コ有テ、其調方ヲ命ゼラル、等ノ例モ常也、其他風水、旱損、饑饉等ノ凶災ニ臨デハ、濟世救民ノ心術ヲ盡スコ他ニ讓ズ、御進獻、公義ヨリ京伊勢日光ノ三所へ進セラル、ヲ御進獻ト云フ御上リ等ノ瓜ヤ西瓜ノ御用ノ菓迄、悉ク手代ノ取扱ハザル物トテハナシ、尙日用ノ事務辨用ニ於テハ、千差萬別筆頭ニ盡スベカラズ、唯其大略ヲ舉ルノミ、僕三十年ノ昔、關東ノ御代官平岩家稱石同勤タリシ館雄次郎ハ、號柳澤、詩文印刷ノ高名家、世ノ人ノ知處ナリ越後ノ新潟ニ生レ、民間ニ人トナルトイヘドモ、天稟ノ英才出藍ノ器量乏シカラズ、其志ヲ立ント思フノ日ニ工夫ヲメグラシ、今太平ノ御代ニ庶人ノ身トシテ世ニ勤甲斐アルモノハ、御代官ノ手代ニシクハナシト心決シテ、字ツク年ノ頃ヨリ小出君稱大出勤シテ年代トナリ、二十三歳ニシテ、頭役衆ヨリ小出君へ内命ノ旨アリテ元々ニ拔擢セラレ、尋テ、手附ニ召抱ヘラレ、老年致仕ニ及ケマデノ勤功令名カゾフルニイトマアラズ、斯ル人傑モ手代ノ賤官微俸ヲ厭ハズ、生涯ノ勤勞ヲ以本意トセシ、手代勤ノ勤メ榮アル妙所妙用ヲ知ベキ也、サレバ祿ヲ世々ニスル普通ノ吏役トハ事替リ、其勤勞勉強中々容「易」ノコニ非ス、才覺次第腕骨次第、日勤多忙ノ駈廻リ場所、昨日案上ニ筆ヲ執ルカ下思ヘバ、今日ハ山野ニ奔走シテ、須臾モ靜座安眠ノ暇有コトナシ、如此其業ヲ知り其事ヲ務ムルヲ以、手代ノ本務本職トス、故ニ

近境鄰端ノ大小名家ニ事アル時ハ、多ク我黨ノ者ニ尋問シテ、其事ヲ取計ラフノ龜鑑トシ、或ハ大家摺紳ヨリ御用頼等ノ名目ヲ以好意ヲ結バレ、主侯へ謁見ノ例モ少ナカラズ、僕ハ藝ナシ手代ナレハ、長崎勤役中鹿兒島薩摩佐嘉銅島侯、福岡黒田侯、唐津小笠原侯、嶋原松平主殿侯、六家ノ諸侯方へ館入スルコト、皆右ノ振リ合ヒヲ以セリ、其他ノ事ハ准ジテ知ルベシ、彼ノ瑩雪ヲアツメテ虛名ヲ賣リ、錢帛ヲ出シテ及第ヲ願ヒ、炬燵兵法田圃水練ヲ事トスル漢學者流ノ屬ニ非ズ、又株ヲ求メテ勤メラルベキ役義ニモ非ズ、古人モ云ヘルコトアリ、不親玉淵者、未知驪龍之所蟠ト、只我黨ノ勤メ方ハ我黨ノミノ知處ニシテ、盲人ノ垣ノゾキスル何ゾ其玉淵ヲ窺知ベキ、然モ事ノ序ナレバ、其勤功ノ他ニ勝レタル一二事ヲ舉テ、三儒鬼亡靈追惡供養ノ爲ニコレヲ説示スベシ、文政年中出羽國村山郡栢倉村附ノ公料二萬石餘私領ニ渡リシガ、其地ニ在陣ノ手代三人、私領ヲタシノ後、コレニ代ル諸役人廿餘人ニ及ビ、郡中入用モ人數ニ准ジテ倍々シ、迷惑ニ及ケルトゾ、是イカナルユヘゾト云ニ、私領役人ハ一役一人ユヘ多ク、手代一人ニテ五役七役ヅ、モ兼帶シテ御用辨ヲナスユヘニ如此ト、其時ノ人申合ヘリ、又天草郡嶋原侯御預所ノ節ハ、每春ノ踏繪ニ踏繪奉行ト唱フル役人ヲ始メ、其掛ノ下司僕從ニ至ル迄、人數三十人程ニテ一箇月斗ノ間連レ廻リ、村々ノ諸雜費夥シク痛入シガ、御代官所ニ成リタル以來、東西へ手分シテ手代一人足輕小僕兩人ヲ召連レ、廻村ノ日數ハ五七日ニテ相濟ケレバ、膳部辨當ノ賄方斗モ十歩一ノ減少ニ成、村役人ノ附廻リ、人夫ノサシ出シカタ、諸事ノ雜用ニ至迄、悉皆手輕ニ事スミ、一郡學テ歡アヘリ、又僕方在勤シタル出羽ノ寒河江陣屋許ハ、楯西楯北楯南ノ三村ニテ一萬石ノ檢見村也シガ、秋ゴトニ御代官下向シテ檢見アリ、例年半日ノ間ニ廻村アリテ、春法升廻ハン改メニ至迄、其日ノ内ニ事スミタリ、是亦私領所檢見ノ振リ合ニ見合セナバ、私領ニテハ既シ人數モ日數モ十倍シ、雜費ノ多寡モ亦准シテ莫大ナルベシ、是ヲ以テモ思ヒ見ヨ、公義ノ御用方ニ寄テハ、強チ大身小身ニ不拘御用辨ヲナシ、御威光ヲ示スノ差別ハ

依ふるひ

有ヘカラス、差別アラズンバ大身ヨリモ小身ニ命セラル、ヲ御益トスベシ、現ニ大小身ノ差別ニヨリテ、公義ノ御入用、郡中ノ諸雜費ソコバクノ相違ト成リ、算ヲ用ヒズシテ分明ナルベシ、當時ノ御代官ト云ハ、從僕僅ニ七八人、手代ハ一僕ニ兩掛一荷ヲ齎シテ、八百萬石ノ御用辨事足レリ、能ク他領他場所ノ比類スル處ナラシヤ、故ニ御代官ヲ小身トナシオカル、ノ御趣意ヲモ恐察シ奉ルヘキト也カシ、

附テ云フ、譬ヘバ材木ノ尺^レヲ仕出スノ算法ハ、開平開立ノ術ヲ以テセザレハ知^レアタハズ、然ルニ今御代官所ニハ八算見一ヲサヘ覺ユレバ、尋常ノ乘除ヲ以テ之ヲ仕出スノ算法アリテ、却テ開平ノ手數ニ優レルコト、一日ヲ以一刻ノ隙ニ掛ケ合フベシ、其外ニモ種々早算辨利ノ法ヲ工夫仕出シテ、今ハ公用ニ開平ノ術ヲ用フルニ及バズ、カレバ^ハ我黨ノモノハ此早算ノ法ニヨリテ、別ニ其術ヲ習練スルモノ稀ナリ、是ヲ件ノ大小身ニ比ベテ云ハ、開平ノ法ハ大身ノ如ク早算ノ法ハ小身ノ如シ、其用ヲナスノ約ニ至テハ同シトイヘ^レ、大ニシテ迂遠ナルモノヲ取シヨリ、小ニシテ捷徑ナルモノヲ取ルコソマシナラメ、又云フ、爰ニ貧居ノ病人アリテ、其タノムベキ醫師兩人アリ、コレヲ招待セントスルニ、一醫ハ大家厚重ニシテ、輻夫藥籠モチ等ノ手アテ、及ビ主僕數人ノ賄方ニ至迄、ソコバクノ手數雜費ヲ掛ケザレバ來ラズ、一醫ハ小家輕狎ニシテ、人夫賄^ヒ等ノ用意ニモ不^レ及、人サヘヤレバ一身ニテ奔走來往ス、而シテ其醫術ニハ甲乙ナク、配濟スル處ノ藥法モ兩醫共ニ同案同品、主治ノ効驗モ亦同様ナランニハ、何レノ醫師ヲ迎フルヲ辨利トカスル、彼三儒子ニ之ヲ問ナバ、必大家ノ醫ヲ迎ヘヨト云^シ歟、可^レ笑、先年^{天保}末天草一郡薩摩領ニ可^レ成トノ風評、誰レ云フトモナク云傳ヘ語リツタヘテ、後ニハ家々ニ其噂喧シク、郡中ノ人氣コレガ爲ニ不^レ穩^カ、遂ニ數願ノ書ヲ役所ヘ捧ゲテ、私領渡リ御免ヲ願出タリ、右ハ全ク根モナキ浮説ニテ、サル^ルト有ベキ時節ニモアラザレバ、利害ヲ説サトシテ安堵ニ至ラシメタリ、是ハ元ト島原侯ノ御預^リ所ヨリ御代官所

ニ成シ土地ニテ、何レニナリテモ同ジ公料ノ地ナリトイヘ^レ、却テ奉行ヨリモ遙カニ大身タル大名ノ支配ヲ好マズ、小祿ノ御代官支配ヲ慕フハイカ成ユエゾ、是其支配タルモノ、取計向ノ可否ニ依テ、人氣ニ歸依不歸依ノ差別アルガユエ也、

去ル文化年中松前蝦夷ノ地一旦公料トナリ、文政ノ始松前家ヘ舊領一圓返シ下サレシトキ、僕ハ東夷ノ果エトロフ島ニ在陣シテ、彼ノ地ヲ同家ノ役人ヘ引渡シ引拂ヒシガ、其折カラ夷人トモヒタスラ落涙啼泣シテ、公義ノ御仁惠ヲ思慕シ奉リ、舊主ナガラモ手薄ナル取扱ヒノ昔ニ復ランコトヲ厭ヒ哀ミタリシ^カ、其事ガラハ天草モノ、御料支配ヲ慕ヒタルノ意味ト相同ジ、和ト夷ト國土ノ相違ハアレ^レ、人情ニ於テハコトナルコトナシ、此蝦夷地ノ治メ方御仕法モ御代官所ノ振^合ニ本付テ、奉行職ヲ松前ニ居オカレ、四方ノ邊塞ヘ其屬役ノ人々ヲ差向ケラル、コト、手代ヲ陣屋ヘ差ツカハシ引受サスルノ類例ニ效ヘルコトキコエタリ、是ヲコトヲモ思ヒ味ハフベシ、其處ニヨリテ奉行ヲ差オカレ、御代官ヲサシオカレ又屬役下司ヲ差オカル、コト、譬ヘハ家ヲ造ルニ大小ノ材木ヲ分ケ用ルガ如ク、其大小材モ皆同ジ御^懐ヨリ出タル差略モノ成^リヲ知ルヤ否ヤ、彼ヲハ唯大身ト小身トノ見クラベノミヲ目當トシテ、其大小身ニ程々ノ當ハメ處アルノ道理ヲ知ザルコソ愚ナレ、

去レバ、公義ノ御仁惠ノ厚重ナルコトハ素ヨリ云フニ及バズ、御代官所ヘ其御仁惠ヲ播^キオヨボスノ役ハ則御代官ニシテ、ソノ又下司ハ手代ナリ、シカアランニハ主役トスル處ノツトメ方其圖ニ叶ヒナバ、小身タリトモ豈大身ノ行フトコロニ耻ザラメヤハ、又定免ハ民ニ利アリ、毛見トイフコトナケレバ代官ヲ置ニモ及バス云々、是ハ徂徠ガ年貢取立^付タヨリ外ニ肝心ナルコトハコレナシト心得ルコト、以ノ外ノコトナリト言^フ醜言ヲ純ガ胡椒丸吞^キコミニ引ウケテ、御代官ハ唯年貢トリタテノ用ノミニ差置ル、モノト合^シ點シタルモノナルベシ、假令定免村^ハバカリナレバトテ、御代官

俵ふるひ

ヲオカレズシテ、數百里先迄ノ御年貢取ヲテ公事訴訟ヲバイカニトカスル、村役人ヨリ直納直訴サズベキ歟、百姓銘々ヨリ持出サスヘキ歟、又定免村ニハ檢見ハナキコト、思ヘルモ、一向無智ノ素人了簡、ソノ上ニ見取トイフモノヲ檢見取ノ同名目ト心得タル不案内ノ書キザマモ見エテ、別シテヲカシ、檢見取ハ高内ノ物、見取ハ高外ノモノト云フ事ヲモ知ラヌト見エタリ、地方ノ名目ヲモシラズシテ、地方ノ論ヲイハント思フハ、所謂井蛙ノ管見、盲目蛇ニ恐ザルノタグヒ是ナルベシ、摠シテ定免ハ民ニ利アルヨリモ、公義ニ御益ノ有ル子細アレバ、檢見村ヲシテ定免村ニ願ハセタキモノナレトモ、僕ラガシリタルトコロノ村々ハ、會テ一村モコレヲ願出タルコトナシ、却テ定免村ヨリ願テ檢見村トナリタルハ有り、其外年ノ凶作ニ寄テ、定免村ヨリ破免ヲ願ヒ出タルハ其數ヲシラズ、又代官ヲ置カサレバ口米出ズ、國家ノ利也ナド書ノセタルモイカバ、是口米ノ出ベキ根元ヲ知ザルユエノ僻言ナリ、口米ハ元口永ト同ク、御代官ノ有無ニ拘ラズ、御年貢ノ米金高ヘ掛ケタル掛物ニテ、年々公納スベキ定法ノ品ナリ、昔ハソレヲ以御代官ノ諸入用ニ充行ハレタリシガ、後御趣法替ヘアリテ、諸入用ハ米金渡リトナリ、口米永ハ公義ヘ納メラレ、タゞ私領ノ御預リ所ニ成トキハ、今モ口米永ヲ以諸入用ニワタサル、コト、成來リタルナリ、然ルヲ御代官ヲサシオカレザレバ、口米モイダスニ及バズト心得タリシハ、事ヲワキマヘザルノ云ヒカタ也、又今世ノ田租ノ法定免ニマサルコトナシ、大聖人禹ノ法ナレバ云フモ愚カナルベシトハ、就中捧腹ノ論ト云ベシ、全躰檢見村モ定免村モ、欲徳勘定ニ拘リテ取極リヲ付ケタルモノニ非ズ、村里ノ善惡地味ノ甲乙ニヨリテ、オノヅカラ差別ノ付キタルモノナルヲ、タゞ一概ニ定免ニサヘスレバ世話モカ、ラズ、宜キコト、思ヒコミタルハ、一向ワキマヘナキ押付ケ推量論ズルニタラズ、大聖人ノ法ナリトモ、禹ノ教ヘナリトモ、圓キトコロヘ三角ノ物ハアテハメガタシ、是ナン琴柱ニ膠シテ琴ヲ彈ジ、船ベリヲ刻ミテ劍ヲ探ラントスルノ族ナルベシ、彼ノ徒ヤ、モスレバ禹ノ法周ノ制ナドヲ以テ口實トス、明ノ國初或

人廟ヲ祭ルニ籩豆ヲ以スルヲ太祖ニス、メシニ、我カ祖先生ル、日此器ヲ不知トテ、太祖ハ用ヒラレザリシト、何ノカ書ニ見タルコトアリ、彼國ノ人サヘ、時宜ニヨリテハ彼ノ國ノ禮ヲ用ヒズ、時古今アリ地ニ異同アリ、吾朝又定レル正法アリ、何ゾヤ異郷ノ書籍ニ引アテ、事ヲ辨スルニ及ブベキ、今時ハ唐モ昔ノ唐ナラズ、天竺モ昔ノ天竺ナラズ、マシテ和漢ノ國チガヒ時世チガヒニ於テヤ、是ヲ名ツケテ抄子定規ト云ベキナリ、コレヲノコニ付ケテ一話アリ、南嶺子ノ隨筆ニ何某殿ノ御内ニ三十人扶持ヲ賜リシ儒者アリシガ、常住座臥ノ口癖ニ、彼周禮漢制ガ好物ニテ、飲食器財ニ至迄皆唐風ニ製作シテ和製ヲ不用、脇差ヲ諸双ニシ、モノサシニハ周尺ヲ用ヒテ、人ノ異見ヲモキカザリケレバ、重職ノ人コレヲ憎ミテ、或時其儒者ニ面會ノ折リ、扶持方々渡シノ談ニ至リテ云ケルヤウ、五穀ヲ量ル升周ノ制ハ考ヘガタシ漢ノ升ヲ考ルニ、日本ノ一合ヲ以一升トス、漢書ニ牛一匹ニ三十六斛ヲ駕ストミエシモ、日本ノ三石六斗ニ當レバ、足下ノ三十人扶持一年ノ高五十四石ナレトモ、周漢ノ制ヲ好マルレバ、之ヲ漢法ニ直シ、五石四斗ノ割合ヲ以相「渡スヤウニト藏方ヘ申渡スベシ、足下ニモ漢流ニテ之ヲ受トラル、ノ段、祝着本望ナルベシト有ケレバ、儒者ハ仰天當惑シテ、ソレニテハ家内十餘人ノ飯米ニモ不足、幾重ニモ誤入シトワビゴトシテ、ソレ以來ハフツク唐流ヲヤメニシタリトゾ、彼江戸ヨリ品川ヘ轉宅シタル儒生ノ唐ヘ二里近ヨリタリトテ歎ビシ由、是ヲノ徒ト同穴ノ漢風狐ナルベシ、

楮又手代ハ下劣ナル役義ナレバ、其身ニ立身ノ望モナシナド、ハ、世間シラズノ云ヒ分也、彼ラガ存生ノ元祿前後ニモ手代ノ立身不_レ珍、トリワケ積善ナドハ在世中、寛政年間白川侯執政中、仰渡サレノ御趣意有テ、自今以後手代ノ身分御抱席ノ御家人ニ准ズベキノ旨、摠御代官中ヘ觸達有_レ之、夫ヨリ新規ノ手代勤ヌヲ禁止セラレ、手代ノ家ニ非ズシテハ手代ニ出ルコト不能、又手代ノ立身ト云ハ、新田開發等ノ功ヲ以御家人トナリ、勤功ニヨリテ御直參ニ召抱ヘラ

レ、後御旗本ニモ昇進シタルノ類不_レ少、近頃立身ノ手附手代手附手代名目ハ異ナレ、打コミ勤差別ナシニハ出羽ノ一撥騒動ヲ取鎮メシ市村宗四郎、手代ヨリ御家人ニ召抱二ラレ、荒井平兵衛殿ハ手附ヨリ御代官迄昇進、松井助左衛門殿ハ同ク御勘定吟味役へ昇進、其他手代ノ腹ヨリ出テ、今現ニ芙蓉ノ間席諸大夫ノ御役人ニ昇進アリシモ有ケル也今時ノコトニハ、猶此外ニモ枚舉遍アラズ、略之、是ヲヲモ立身ナラズト云ンカ、將立身ノ望ナシト云ベキカ、

今江戸馬喰町御用屋敷ト唱フル三分ノ御代官所ハ、元ト關東御郡代今關東伊奈右近將監一緒ノ支配也シガ、寛政年間故有テ是ヲ止ラル御勘定奉行ヨリ兼帶トナリ、復御仕法替ヘニナリ、御代官五人ヘ支配ヲ命ゼラレ、コレヨリ馬喰町御用ヤシキト稱シ、後減ジテ三人トナル、伊奈家ハ祿四千石ノ大家ニテ有ケルナリ、後千石ニテ御代官ニ召出サル、則徂徠積善ラガ云フ處ノ千石ヨリ二千石マテノ注文ヨリモ上ヘヲ越スベシ、關東ハ別段ノ場所ガラナレ、バ、今世ハ郡代御代官別名班列也、今モ美濃飛騨大津西國ハ郡代所也、カタノ如ク大家ヘモ支配ヲ命ゼラレシカレ、三分ハ小祿ノ御代官トワカレタルハ、御趣意アリテノ事ナルベシ、外ノ御代官ノ小身ニテ差オカル、コモ准ジテ可_レ知、カ、レバ始ヨリ御代官職小祿ニ限ルニ非ズ、今世モ猶多羅尾家、後ノ伊奈家ナド、千石以上ノ祿ニテ、小祿ノ御代官ト打込也、二是ヲノコトハ其時勢時宜ニヨリテ御斟酌モ有ベキナレバ、大祿ニテ宜トキハ大祿ニセラレ、小祿ニテ宜トキハ小祿ニセラレベシ、公邊ニウトキ儒生ノ輩ノ愚存ヲ以、嘴ヲイレンコト片腹イタシ、サレバ馬喰町ノ三分ハ別段ノ場所ニテ、手代モ重モ手代ニ至レバ御普請役格ニ命ゼラレ、其他小堀京石原大津江川州多羅尾州高木崎等ノ數家ハ代々土着ノ御代官ニシテ、各格別ノ舊家タルニヨリ、手代モ亦ソレノ格合ヒアリ、僕モ長崎勤役中元ニ命ゼラレシ時、鬘斗目白帷子着用若黨召連レ等ノコトヲ許サレ、彼地奉行所并御米藏等ヘ御代官ノ名代ヲ勤メ、御勘定方ト立會ノ場所ヘモ出勤、去ル天保十二年、文恭大君薨御ノ節ハ、先例伺ノ上、御家人ニ准ジ、七日ノ間長髪ニテ出勤シタルタメシモアリキ、然ルニ同所ノ唐通事トモカネテ帶刀鬘斗目着用ヲ望願スルコト年アリシガ、奉行所ヘ内意ヲ申

込ミ、唐通事ハ海外ノモノト應接ヲナス外見モアレバ、自餘ノ役人トモ譯チガヒ、別段ノ格合ヒヲ蒙リタク、就テハ御代官手代サヘ、元ニ至レバ鬘斗目若黨ヲモ許サル、ノ例アレバ、通事モ大通事ニ命ゼラレシ者ヲバ、右ノ振合ニ格式ヲ賜リタクノ旨及内願タリシガ、時ノ家老大ニ憤叱シテ、通事ニハ通事ダケノ分限アリ、御代官手代ニハ手代ノ身分アリ、手代ハ小吏輕輩トイヘ、御政事ノ片端ヲモ取扱ヒ、御用向ノ勤方モ格別ニシテ、唐人ノ取次役ナト、ハ比類スベキニ非ズ、然ルヲ通事ノ分際トシテ、手代サヘナド、ハ以ノ外ノ過言也、猶此上ニモ心得チガヒノ私願ニ及バ、却テ其身ノ越度トナルベキゾト、タシナメラレケレバ、一言モナク屈伏シテ、年頃ノ望ミヲ思捨タリシトゾ、是ヲノ諸説ヲ照シ合セテモ、手代ノ手代ツトメタルユエンヲ知ベキ也、因ミニ云、手代ノ名目ハ今御料私領町人ニモ有リトイヘ、其濫觴ハ御代官手代ヨリ起レルナルベシ、イカニトナレバ、手代ト御代官ハ君臣ニ非ズ、頭人下司ニモ非ズ、而シテ其從事スル禮遇ニ於テハ、君臣ノ如クニモ見ヘ、頭人下司ノ如クニモミユ、手代ハ則手ガハリノ意ニテ、御代官ノ手ニ代リ勤ムルノ名目、前キニ云御代官ノ名代ヲ勤ル等ノコトヲ以、當然ノ義ト云ベシ、又手代ノ公事ヲ檢覈スルヲ吟味ト云、今世吟味ト唱ルハ御目見ヘ以上ノ人ノ云處、糺明ト唱フルハ御目見以下ノ人ノ云處ニ定リテ、オノヅカラ其差別付キタルコト、譬ヘバ袋杖長柄傘夏足袋ハ以上ニ用ヒテ、以下ニ許サレズ、具足櫃ハ二人持テテ以上トシ、一人持テ以下トスルガ如シ、然ルニ手代ハ都テ我口ヨリ吟味ト唱ヘテ妨ゲナシ、是ハ御代官ヨリノ書上物ニモ、手代差ツカハシ吟味爲仕ト、シタ、ムルノ定例ニヨリテノコトナリ、此一事ニテモ御代官ノ手ガハリノ身分ナルコト可知、就中八州廻リ出役サキナドノコトニ於テハ、一役一人ノ手代役ニシテ、我ヨリ吟味ト唱ヘ、又其品ニヨリテハ、御勘定奉行ヘ直言上、直書上ヲ致ス事ナリ、盜賊火付改ノ下司等ハ、頭役ノ手ヲハナレ、他所ニ於テ取調べ物ナド有之節ハ、糺スト云テ吟味ト云ハズ、是上ノ意ヲ受テ、取調ヲナスコト手續キハ同ジトイヘ、司役ニ付テ場合ヒチガ依ふるひ

ヒ有ユヘ也、是ヲノコヲ以手代ノ別境ナルコヲ知ルベシ、或ル御代官手代何某^{姓名}御勘定所へ出役ノ折カラ、御勘定方ヨリノ尋ネニ、手代ト云モノハ御代官ノ家來カト有ケルニ、何某答ヘテ家來ニハ無之、手代ニテ候ト申ケルユヘ、家來ニ非ズハ下役カトアリケレバ、下役ニモ無之、手代ニテ候ト答ヘケレハ、其手代ハイカナル身分ノモノナルゾト云ハレケルニ、^四矢張り手代ニテ候トテ、幾度尋アリテモ、唯押返シクリ返シ、手代ハ則手代ニテ候ト申答ヘケレバ、御勘定方モ笑テ尋ネヲ止ラレタリトゾ、又一人ノ書役^{始書役ヲ勤メ、夫ヨリ手代ノ本勤ニ至ル、手代勤ノ手續ナリ、御勘定所ハ手代以上ノ出役場所ニテ、手代ニ差支ハアルトキナラデハ、書役ヲ出サ、御勘定所ニテ、御勘定方ノ談ジ向キニ逆ラヒタルコト有ケレバ、腹立アリテ、其方ハ何モノゾト問ハレケレバ、書役ニテ候ト答フ、書役ノ若輩モノニテハ談ジ向キ不辨理也、御代官ハ出勤ナキカト尋ラレケレバ、御代官ハ外御用之アリ、出勤無之候ト申ス、左アラバ元ヱヲ出セトアリケレバ、元ヱハ病氣ニテ候ト云、左アラバ元ヱニ差ツマキタルモノヲイダスベシト云ハレケルニ、左候ハ、私へ御談ジ下サレカシ、私モ段々段々ニ元ヱニ差ツマキタル者ニテ候ト申ケルニゾ、一坐頓智ノ答へニ感ゼラレテ、再談滞リナク相スミケルト也、是ヲノ笑談ニ付テモ、手代ノ手代タル所以ヲシルベキナリ、僕モ不肖ナリトイヘ、天草陣屋ノ引受ヲ命ゼラレ^{引受ハ、元ヱニシテ、一役所一郡周海六十里、高二萬三千石、村數八十八、大庄屋十人、庄屋八十人、人別十五萬人ニ司トシテ、無事靜謐ニ在住勤役スルコト數年、天草島ハ征普一國ノ數ニ入り、五萬石ノ高ナリシガ、後ニ東肥ノ一郡トナリ、其他ノ御代官所モ、御代官定府ノ一面々ハ、皆重立チタル手代ヲ差ツカハシテ引受サセ、地方ヲ抑按シ、公事ヲ吟味シ、盜賊惡徒ノ取締向ニ至ル迄、武威ヲ減サズ、定法ノ規矩ニ隨ヒ、萬事御代官ニ代リテ、能クコレヲ務ム、寧爲ニ鶏口ニ莫爲ニ牛後、廣キ世界ノ内ニハ戸位素餐ノ大身モアリ、酒囊飯袋ノ歷々モアリ、コレヲノ者ト引競ベナンニハ、何レヲカ宜トセンヤ、斯テモ御代官ハ在江戸ニテ、手代ヲ差ツカハスユエ、奸曲アリト云ベキカ、裁許モナラスト云ヘキ歟、サレハ手代}}

ノ身ニアツカル處ノ務方サヘ斯ノ如シ、シカルヲ云ハンヤ御代官ノ武威職分ニ於テヤ、譬へバ萬石ドリノ大身也トモ、其柄權ヲ削リ去ラレナバ、今日ヨリ武威モ役威モ隨テ共ニ減ズベシ、百石ドリノ微祿タリトモ、其權ヲ授カリ其職ヲ與ヘラレナバ、即時ニ御威光ヲ輝カシ、ソノ職事ヲ勤メ行ハンコ、掌ヲメグラスガ如クナルベシ、漢ノ韓信ハ楚ヲ夜逃ニシタル日陰ノモノナリシカドモ、一トタビ壇ニ升テ、元帥ノ柄權手ニ入レバ、百萬ノ將卒ヲ指揮スルコト手足ノ如ク、燕ノ樂毅ハ齊ノ七十餘城ヲフミ潰シ、サシモイミジキ大功威勢アリシ身ナリシカドモ、一旦惠王ノ疑ヲウケ他人ニ大任ヲ取替ラレテ、國ヲ^{一五}出奔シタルアリサマハ、泥ニ尾ヲ曳ク鼠ニ似タリ、翟公ガ廷尉トナルノ日、賀客ノ門ニミチシモ、廢ラル、ニ及デハ、門前ニ雀糞ヲ設ケ、後又再任スルニ及デ、來々賀スルモノ、タメニ、一貧一富適知^{一六}交態ト、門ニ大署シタリシモ、其憤^{一七}思ヤルベシ、皆是其職權ノアルトナキトノ差別ニシテ、カナラズシモ大身小身ノ差別ニ拘ハラサルコト著シ、用之則爲^{一八}王者師、不用則窮谷ニ一隻耳ト、唐ノ蕭嵩ガ言、信ナルカナ、ソノ用ヒカタニヨリテハ、猫モ虎トナリ、虎モ猫トナルベシ、漢ノ梁竦ガ別縣之職ハ徒ニ勞^{一九}人爾ナド云タルハ、畢竟用ヒラレズシテ、草野ニ一生ヲ朽果シマケ惜ミ三子ガ心ニハカナヒタル言ナルベケレドモ、何ゾヤ州縣ノ職ヲイヤシメアザケルノ道理アラン、凡天下國家ヲ治ルノ本立ハ先ツ州縣ノ職ヲ置カズシテ、何ヲ^{二〇}以其治法要領ノ柱礎トセン、何ゾヤ人ヲ勞スルノ職ト云ンヤ、可笑、且云フ、御代官ニ大身ヲ置テ、刑罰ヲモ、カロキコハソノ所ニテ、執ヲコナハセタシナド、ハ何ノ云ヒゾ、勿論人命ニ拘ルノ仕置ニ至テハ、國郡ヲ領知セラル、大小名家タリ、其品ニヨリ、公邊へ内意ヲ伺ヒ、下知ヲ經テ後、之ヲ行フノ例モ不^{二一}少、況テソノ地ヲ^{二二}預リ知ル奉行御代官ノ職分ハ、領主ノ處置トハ又異也、今日太平ノ御時世ニ於テハ、彼軍中ニ君命ヲ待ズシテ行フナドノ、戰國ノ振合トハ譯モチガフコト也、サレハ其處ニヨリ、其品ニヨリテハ、カネテ伺濟ミノ手續モアリテ、唯輕キ事ノ刑罰ノミニ非ズ、手限ノ死罪

ヲモ速ニ執行ハレ、長崎ノ拔荷御仕 御代官所ニモ之ニ准ジテ直仕置申ツケラル、例モ不_レ珍、是偏ニ人命ヲ重ンズルノ御仁政ヨリ出タル盛事ナリ、中ニモヲカシカリシハ、民間ノ治ヲ第一トシ、農業ノ筋ヲモ民ノ知ラヌコトアルヲモ之ヲ教ヘ、川除堤普請ノ類ヲモ申シツケ、盜賊博奕邪宗邪法ノ類ヲモ、之ヲ抑ヘサスベシナド、ハ、入ラザル世話ノヤキヤウ也、所謂孔子ニ説經、玉人ニ玉ヲ彫琢スルノ術ヲ教ントスルノタダヒ、是ラハ皆御代官所ヲツトムルモノ、常ノ職ナリ、御代官ヲ差ヲカル、ハ何ノ爲ゾ、其田地ノ者ハ門番小使モヨク之ヲ知ル、適ソレラノ_レヲ按シ、アタリ珍シサウニ取並ベタルハイカニゾヤ、譬ヘバ、寛政ノ竹垣君稱三右衛門ハ上毛二國ノ支配タリシ時、亡村ヲ再復シ、手餘リ荒地ヲ起シ返ヘシ、鰥寡孤獨ヲ哀ミ、逃散ノ民ヲ元ノ地ニ歸ヘシ、他國ノ貧人ヲ招キ住マシメテ戸籍ニ入モノ千八百餘人、又子ヲ間引ノ舊一六ナ弊惡習ヲ深ク患ヒトセラレ、懇ニ是ヲ教導禁止シ、其資料ヲ施シ與ヘ、小兒ヲ治命養育セシメラル、處ノモノ三千二百餘人ニ及ビ、後ニハ常毛房總ノ四州十萬石餘ノ支配ヲ命ゼラレ、庶民普ク其仁德ニ歸伏セリ、此君ノ功業徳政ハ柴野栗山龜田鵬齋二先生ノ傳記碑銘ニ審カニ稱賛セラレテ、人ヨクコレヲ知處ナリ、宋ノ翁仲寛ガ順昌ノ宰タリシ時、子ヲ殺ス_レヲイマシメテ、之ヲ助命セシムル_レ千人ニ過ギ、其子皆翁ノ字ヲ以幼名ニ冠リ、恩ヲ感ゼリトキコエシモ、廣大ノ善行ナリト稱譽シタルニ、猶且ソレニハ三増倍ノ大善行、タレカハ是ヲ仰ガザルベキ、サレバ同家ハ積善功德ノ家ガラニシテ、視考ヨリ今ノ竹垣君ニ至迄、稱八郎左衛門勤功勳徳モ、大ムネ竹垣君ノ政跡ニ類シタレバ略シテ贅セズ、就中碩學ノ聲譽アリ、作州ノ久世ニ典學館、備中ノ笠岡ニ敬業館ヲ創立セラレシハ此君ナリ、太田元貞ガ撰ブ處ノ碑文ヲ見テ、其クハシキヲ知ベシ、又田口君ハ、稱五郎左衛門後昇進ノ時、空野ヲ刈拂テ新邑ヲ取立ラレ、稱大四郎後二ノ九稱六西國郡代ノ時、筑前ノ海面干潟ヲ開發シテ、千早新

田ノ一村成就セリ、此外ニモ兩君牧民ノ功績ハ云モサラ也、河洲ヲ浚ヘテ貢船ヲ走ラセ、土中ニ種シテ水道ヲ通シ、或ハ嶮山ヲ穿抜テ坦路ヲ闢クナトノ奇巧妙算、各ソノ宜キヲ得テ公私ノ利益最大ニナリ、故ニ此人ハ存世中ヨリ郡民碑ヲ建テ生碑ト號シ、其功ヲ稱ヘ、其德ヲ慕ヘリ、漢ノ王堂、唐ノ狄仁傑ガ生祠ヲ立テラレシタメシニモヲトラメヤハ、其他諸州ノ御代官山野海岸等ノ新田開發ヲ草創セラレタル廉々、御當代以來、ソコバク萬石ノ御益ト成シナドハ、其功尋常ノ_レニ非ズ、又天草ニハ、回心踏繪ナド云_レモアリ、是ハ先年彼ノ地ノ大江組ト云、組合村々ノ者トモ、邪宗門ニ紛ラハシキ所行アリシヲ、吟味取鎮メ有テ、夫以來彼村々ニ限り、年々春冬二度ノ踏繪ヲ改ル_レ、今ニタエズ、コレラノ_レトドモハ、右ノ定式普請ヤ、取締物ノ比別稱七非レバ、夢ニモシラズ、氣モ付クマジ、其職掌ニ堪タルノ治蹟功勞、隅カラ隅マデ洩ス處ナシ、何ゾ餘所ヨリノ批點ヲ打タル、_レヲラセン、又與力御徒等ノ働キ業ヲ好マルザル生付ナラバ、御代官ナドニ附ケツカハシ、手代ノ代リニシテ隔チタル國ヲミセ、山川地理ヲシラセ、田舎ヲモ走リ、稱八歩キタラバ、親ノ懷子ニテ、御城下ニテ育チ、何ノワケヲモ知ラヌアホウニハマサルベシトハ、是何ノ事ゾ、盜人ヲ見カケテ繩ヲヨルヨリモ愚ナル思ヒツキ、左様ノアホウガ手代ノ代リニ用ヒラル、モノト思ヒテノ_レニヤ、是ラハ目ヲ取テ鼻ニ付ルノ僻論ト云フベシ、乃止手代ガハリニ用ヒラル、マデノ修行稽古ノ出キルモノニモセヨ、用ニ立ベキ手代ヲ聞キ、優長ラシク不用ノ人ヲパン_レト取タテ、居ルヤウナル、餘計仕事スル御代官所ノヒマハナシ、假令ソレヲ人ヲ手代ニ取立、手代ノ用ヲナシタリトモ、唯人ヲ換ヘタルノミノ事ニシテ、杵取直シタルマデノ仕法、何ノ益カアル、是唯手代ヲ偏執シタルヨリノ思ヒツキナレバ、簡様ノツヂツマ合ヌ_レトドモヲ云出シタルモノナルベシ、サレド手代ノ勤場所ハ、外々ヨリ格別御用ニ立ベキ_レヲ知レバコソ、左迄ニ惡シク云タル手代ノ替リニシテ、修行サセン_レヲ云タルハ、殊更ニヲカシ、是ハ御普請役其外ノ子息ヲ、御代官所ヘ頼入レテ差出シ、手代ノ勤方ヲ見習ハセテ後、御

奉公ノ御用辨ヲ致スモノ往々不少、コレヲノコヲキ、及テ、カクハ云タルモノナルベシ、彼ラモ砂糖ハ甘ク、鹽ハ辛シト云味ヲバ知テ居ルニコソ、又檢見ニ付テハ、道路館舎ノ掃除、珍膳肩輿人馬送迎等ノコマデモ、コトノシゲニ取並ベシ、剩ヘ賄賂ノツカミ取りニテモ、スルヤウニ書ノセタリ、毛見村ニハ定法アリテ、諸事ノ非分ヲ戒ルコト第一也、然レ道路ノ露ヲ拂ヒ、橋ナキニ橋ヲワタシ、一汁一菜ノ賄カタ、夫役人馬ノ送迎ノ禮アルヘキハ勿論ノコナルヲ、針ヲ棒ニ云ヒナシタルノミナラズ、御代官ヲバ富邦君ニ埒シト云ヒ、手代ヲバ鉅萬ノ金ヲ蓄ヘテ、與力旗本衆ノ家ヲ買取リ、美麗ヲキハム、純親シク見聞シタリナドノ惡言憎ムベシ、但シ純ハ獨リ狐ニデモ誑サレテ、夫ラノコヲ親シク見キ、シタリシニヤ、御當代以來、何レノ御代官カ邦君ノ富ヲ致シ、イヅレノ手代カ鉅萬ノ金ヲ賄ヘンゾ、邦君ノ富、鉅萬ノ金トハ何ホドノ分量ト云コヲ知タルカ、仰山ヲシキ申シタテモ事ニ寄ベシ、彼ノ武成ノ血流漂々、孟子ノ周ノ餘ノ黎民子遺アルコトナシ、史記之坑ニ四十萬人ナド、夸大浮套ノ口眞似スルヲヨキコト、心得タルコソ愚カナレ、誰カハ是ヲ信トシ宜ナハン、其分ニ非スシテ、其驕ヲキハメシモノハ、却テ町人ニアリ、湍屋辰五郎紀伊國屋文右衛門等コレ也、是ヲ邦君鉅萬ノ富トモ奢トモ云ベシ、天罰踵ヲメクラサズシテ、皆家ヲモ身ヲモ亡シタリ、又手代ヨリ株ヲ求メテ與力ニナリ、御徒御普請役ニ成タルモノハナキニ非ズ、株サヘ求レバ賄賂ノ金ト思フニヤ、手代ノ身ニモ貧富アリ、才不才アリ、僕カ知レルモノニモ、親ノ助力ヲ以求メ、家督地面ヲ沽却シテ求メ、有徳ノ町人ヨリ金ヲ出シテ求メタルモアリ、是ハ手代ニ限リタルコトモアラズ、唯御旗本ノ家ヲ買取シナド云シハ、全ク虛妄ノ誣言ニテ、古今手代ヨリ御旗本ノ家ヲ買取シモノハ一人モナシ、是ハ手代ニ不限、平民ヨリ御旗本ノ家ヲ買取ハ、天下ノ大禁ナリ、モシコレヲ侵スモノ有トキハ、雙方死刑ヲ免レズ、ソレヲノコハ他向ニハ有シト聞及タリ、手代ヲモ勤ルホドノ者、其位ノコヲ辨ヘザル者ハナシ、御代官ハ小身ナレトモ、輕カラザル御役ヲ勤ル身分ニモ、諸事ノ御宛行モ御

手厚ナレバ、自餘ノ不如意ナル御旗本ノ見クラベトハ異ナリ、内外ノ景様モ見ニクカラズ、手代モ亦給料ノ外ニ、御用ニカ、リ、出役ニ向フ品々ニヨリテ、ソレノアテ行ハル、處ノ扶助アリ、却テ輕キ御家人ノ貧究ナルニ見競ベテハ、可也ニ取回シヨキモノナキニハ非ズ、サレトモソレハ十ガ一ニテ、内實ハ朝夕ニ苦シ、内職ヲ營ミ、質店ニ懇意ニラ結ブモノモスクナシトセズ、斯イヘバトテ、百千人ニモアマレル手代ノウチナレバ、順良廉直ノモノ斗ニハアルベカラス、積善ガ云フ處ノ奸詐貪婪ノモノモナシトスベカラス、御仕置ニ逢タルモノモ有ケル也、左ハ云ヘ我黨ニハ又我黨ノ法則アリ、不義ノ錢金ヲ食ルヤウナル野卑賤陋ノ事ヲスルモノハ、是眞ノ手代ト云モノニアラズ、左様ノモノヲバ仲間ノ面汚シトシテ、友吟味ヲ遂ゲ、風上ニモ差オカズ、但シ手代ノ境界ニモ秘事アリ、賄賂ヲモ受ズ、貧乏ニモ不レ苦、天ヨリ與ラルモノ有時ハ之ヲ取ルヲ上手ノ手代トス、然レトモ、夫ラノ取捨掛ケ引、僅ニ一步ヲ誤レハ、差フニ千里ヲ以テスベシ、酒人ノ其子ニ酒ノムコヲ不レ教、一子相傳ニモ及ガタキハ手代ノ道也、ワヅカ斗ナル給扶持ヲ心アテニシテ、生涯碌々ノ勤ヲナスモノハ、是下手手代ノ仕業也、僕平常心ニ五字ヲ記シテ以、手代務ノ謹戒トス、大欲如ニ無欲ニ是ナリ、若其ワザヲ成サントスルトキハ、五指ノカハルノ彈カシヨリ一拳ニ如ズ、菟角小刀細工ニ目ヲカケズ、大名ナドヲ目アテニシテ拔群ノ智術才覺ヲ施シ、百發百中手際ヨキ働キスルヲ手代ノ名人ト云ベキ也、因ミニ爰ニ一二話ヲ記シテ、手代仕事ノ内幕ヲミスベシ、我一友人、文政ノ末、或ル諸侯方ノ銀札場ノ潰レニ及ビシヲ、懇意ノ巨商ニ頼談ヲ遂、數萬金ノ銀札高ヲ引受サセ、仕法ヲ付ケテ、改革ノ工風ヲ成シケルニ、計術圖ニ當リテ、國中ノ通用、領主ノ勝手向モ是ヨリ大ニ立直リケレバ、侯ヨリ其歡ヒトシテ、大金ノ報賜アリ、是ヲ上等ノ手際ト云ベシ、並ベ云フモ嗚呼ガマシケレド、僕天保壬辰ノ夏、羽州酒田湊ヘ御廻米積立トシテ出役ノ折カラ、同所今町辨天祭り、遊女芝居ニ於テ、紀州船乗組ノ者トモ喧嘩ヲ仕出シ、疵ヲ受、其仕返シトシテ類船三艘ノ人數六十余人

一致徒黨シ、今町遊女屋三十軒打毀チノタメニ、竹槍窩口等ノ得モノヲ携へ、船ナアガリシ、領主ヨリ差出ス處ノ取
 領メノ役人ドモヲ打散シ、勢ヒニ乗シテ押出シタル途中、秋田町ナル、僕ガ旅宿前ヲ通りカ、リ、無禮狼藉ノ動止ア
 リシニヨリ見遁シガタク、手段ヲ以其者トモヲ捕押ヘシヨリ、件ノ騒動事穩便ノ取治マリニ相成リ、依之時ノ町奉
 行加藤伊右衛門ヨリ其始末ヲ鶴ヶ岡ヘ執達シ、領主酒井侯ヨリ手厚ノ謝義ヲ贈リ越サレタリ、此一件別記ア、是ラ中等
 ノ手際トスベシ、又上方筋ナル一大藩ノ領内ニ年々廻米ヲ江戸ヘ運送スル仕來リナリシガ、遠海ノ途中マ、難破船ノ
 患アリ、且ハ洋中長日數ヲ經ルコトナレバ、米穀ノ欠減不少、毎年辨米諸雜費ノ夥キニ困ジ果シテ、其最寄ノ、御代官
 手代何某コレヲ聞及ヒ、難澁ヲ察知シテツノ筋ノ役人ヘ理談ヲ遂ゲ、右ノ廻米ヲ石代金ニ替ヘテ定納トセンコトヲ計
 リ、郡中ノ歎願書并ニ掛リ、役人中ヨリ申取リ書ノ趣意ニ至ル迄、明細ニ下案ヲ取シタ、メテ是ヲ授與シケレバ、教ノ
 マ、ニ取計ラヒテ、則領主ノ聞濟ミヲ受ケ、事成就ニ及ビ、ソレ以來永世石代納トナリ、百姓ノ喜悅大カタナラズ、
 何ガシヘツコバクノ酬恩ニ及ケルヨシ、是ラハ中等ノ中タル手際ト云ツベシ、右三等ノ品位味ハフテ可レ知、
 附テ云フ、先年去ル一儒官、遠國ノ御年貢米ヲ江戸ヘ運送ノコトニ付テハ、公義ヨリ下シ玉ハルトコロノ陸路、川
 路ノ津出シ、海上運賃金、湊出役、浦役人給扶持等ノ諸入用ヲ先トシテ、郡中ニカ、レル辨米、欠減米、納庄屋出
 府、湊詰、川通り廻廻リ、上乘等ノ雜用ニ至ルマデ、公私少ナカラザル失墜ト相ナルコトニ心付キ、就テハ右御廻米
 ノ分、後來石代金ニ替ヘテ上納スルトキハ、件ノ諸費スベテ相除カリ、上下ノ幸慶ハ云フニ及ズ、御善政ノ一美事
 ナルベシト存ジツキ、右ノ通り御仕方替ヘノ工夫ヲ懲シテ、其趣ヲ一書ニシタ、メ、時々執政家ニ進達シタリケレ
 バ、執政コレヲヨミ玉ヒテ、是ラノコトハ記誦ノ儒ナドノ關リ知ベキコトニ非ズトテ、即時ニ書面ヲ差返サレケレバ、
 儒官ハ赤面慚悔シ、折角ノ思ヒタチモ畫餅トナリタルヨシ、左スレバ前段ノ廻米ノ條ト此事ノ一談トハ、頗ル同法

同手段ノ如クニキコユレドモ、其用ト不用ノ入りワケニ至テハ、小同大異、甚タ似テ非ナルモノト云ツベシ、必シ
 モ彼ト是ト混ジテ思ヒ惑フコト有ベカラズ、再思セバ解ヲ待スシテ其意味審ナルベキゾ、摠ジテ諸侯ガタノ年々參勤
 交替ニ大マイノ黄白ヲ費ヤサレ、家國ニ殘シトムルノ蓄ヘナキニ至リ、御廻米ニ多クノ御入用ヲ掛ケ、東都ヘ差
 廻サレ、國郡ニ餘計ノ貯ヘナキニ至ラシメ玉ヘルモ、赤石ノ海ノ底深キ御趣意モ有テノコト也トハ承ヌレド、淺瀬ノ
 浪ノ淺ハカナル、我々ドモノ智慧ニハ思ヒ辨ヘガタクコソ、

其他大名ガタノ頼ミニヨリテ、經濟向キノ辨利ヲ工夫シ、國ヲ富マシ、民ヲ饒ハス等ノ獻策ヲ成就シテ、ソレガタメ
 ニ手厚ノ禮物ニニアヅカリシナドノ類モ、往々スクチカラズ、ソレラハ働キ次第ノ才覺ナリ、或ハ出役先ニ於テ、
 諸家ガタヨリ目錄產物等ヲ申シ受ルナドノコトハマ、アリ、定例ノ外ハ其筋ヘ伺ヒノウヘニテ之ヲ受納セリ、唯ニ手代
 ノ上ノミナラス、重キ御役人御代官御勘定方其以下ノ諸役人ニ至迄モ、多ク例有テ耻ル處ナシ、

楊慎ガ四知ノ戒メハ最左モ有ベシ、物ト品ニ寄テ、其取捨アラズンバ、有ベカラズ、昔シ北條ノ青砥左衛門ハ、
 賄賂ノ錢ヲ贈リタル者ヲ、巧訴不直ノ眼ノ付ケ處トシ、又寛文ノ執政板倉内膳侯ハ、諸方ヨリ贈レル音信物ノ品、
 ヲ一、首ノ上ニ棒グイタ、キテ、是我々ガ才德器量ノ働キニヨリテ致ス處ニ非ズ、全ク重職ノ御役義ヲ蒙リシ御蔭
 餘光ニヨルコトナレバ、則上ノ物ヲ頂戴スルモ同様ナリトテ、受用ナシ玉ヒシヨシ、板倉伊賀侯ハ、境論ノ公事ニ、
 相手方ノ者ヨリ淺爪ヲ贈コシタルヲ賞味セラレナガラ、却テ其者ニ眞罰ヲアテラレタルモ面白シ、シカハ云ヘドモ
 味嚙ヲモ尿ヲモ一擲ミニスベカラズ、漢ノ陳平カ貧乏世帯ノ取直シスルマデ、賄賂ヲトリコミタルノ中シワケ、柳
 下惠カ途ニ人ノ婦妻ノ凍ヘタルヲミカケテ、我肌ヲ以アタ、メヤリ、齊ノ管仲ガ飽叔ト最合ヒ商ヒノ財利ヲ多ク食
 リ取テ、疑ヒラウケザルナドノ名臣循吏ハ、是億兆ノ人ノ中ノ一兩人ノミ、迎モ凡庸ノモノ、能ク及ブベキニ非レ

バ、隨分トモニ瓜田ノ杵李下ノ冠ノ戒メヲ守ルヲ以ヨシトス、カナラズ〜人傑タチノ眞似ヲシテ、大キナ目ニ逢
フコナカレ、

サレバ上等ノ手代ト云フハ、定例モノ、取アツカヒゴト、公事訴訟等ノコトニヨリテ、禮物ヲ食リ取ルナドノ類ニア
ラズ、人ニモ宜シク、我ニモヨロシク、何かタヘモアタリサハリナキ上策ノ仕事ヲ見アテナバ、隨分知惠袋ヲ振ヒ出
シテ宜キ種ヲ蒔テヤリ其報酬ヲ受ルヲ以、手代ノ名人トモ云ヘキナリ、己レ達セント欲シテ、先ツ人ヲ達セ
シムトハ、是ヲノコトヲ云ナルベシ、コレ皆我黨ノ奥秘樂屋探シ、所謂以心傳心、世ニ廣クスルノコトニハアラズト
イヘドモ、人ノ姓名ヲ問フニハ、先ヅ我名ヲナノルベシ、故ニマツ、我方内幕ヲヒキ明ケテ、馬足ヲ顯ハシ、彼輩ガ
隠藏ニ秘藏トコロノ品玉ノ底ヲハタカセ、灸所ヲ鑿穿テ向後同類ノ見懲シメトス、總ジテ手代トサヘイヘバ、貪官
酷吏ヲ以名トシ、賄賂ニ耽リ、國家ノ害ヲナシ、御仕置ノ者タエズナド、目ノ敵ノ如クニ云ヒハヤセリ、イカサマ手
代モ數多ノ手代ナレバ、ソレヲノ者モナキニ非ルコトハ、前條ニ述ルガ如シ、シカハアレモ手代斗ヲ著ニ取テノ云ヒ
タテ心得ガタシ、知ズヤ、王侯大夫庶人ノ果ニ至ル迄、熟カ善惡邪正刑罰沙汰ノ非ルコトヲ得ン、夫等ノコトハ和漢古
今ノ史籍ヲ見テモ、論ヲマタズシテ詳也、近ク御當代以來ノ御治世ニダニ、反逆、奸曲、驕暴、不正、不敬等ノコ
トニ坐セラレテ、死刑流罪國除滅祿トナリタル大小名百四十餘家田國朝 舊章錄其以下ノモノ家ヲ亡シ身ヲ害セシ類推テ可
レ知、何ゾヤ手代バカリニ限レリトセン、刀瘡易、沒惡語難、消古言ニモ君子ハ人ノ美ヲナストコソアレ、儒者ノ儒者ヲ
ル心ガケアラシモノハ、ソレヲノ言ニモ恥ラフベキハヅナルニ、却テ新疊ノ塵埃ヲモタ、キタテ、人ノ醜名ヲ喚出サ
ントスルハイカニゾヤ、是ニツケテモ穿鑿ダテスル儒者ト云モノニモ、豈篤實謹行ノモノ斗ナランヤ、況テ彼ノ三子
ノ徒ナドノ罪狀ヲ逆カ穿鑿シナバ、却テ奸詐貪婪國家ノ害ヲナスノ族モナカルベキカハ、サラバ是ヨリ其黨類ノ惡臭

風ノ棚ヲロシスルヲ聞ケ、ツラ〜彼徒カ平常ノ行事ヲ惟ルニ、中臣ノ穢詞ナラネドモ、口ニハモロ〜ノ不淨ヲ云
コヲ厭ヒテ、讀書講談論說ヲ勤メトシ、著作ヲ繕ヒ、詩ヲ賣リ、文ヲ街ヒ、唯東修儀物ノ多カラシコトヲ欲シ、心ニ
ハモロ〜ノ不淨ヲ醸シテ、父子相爭ヒ、兄弟相闘キ、放蕩惰弱、人ニ奢ルヲ高致トシ、人ヲ見ルコト土芥ノ如ク、
淫行嗜欲ノ念々無レ所不至、サレバ朝夕ニハ孝弟忠信ノ道ヲ説テ賢人ブリ、夕ベニハ市井無賴ノ奴トナリテ、恥ルコ
トナシ、コレヲ是偽學詭譎ノ徒、邪誕妖妄ノ族ト云ベキヨミ、斯言タル斗ニテハ、手代ノ境界ヲサミセラレタル腹イセ
ニ、云ハレザル惡名ノ云立テスルナド、嘲ラン輩モ有ベキナレド、左ニ非ズ、然バ我方角ニ拘ハラザル一二事ヲ舉テ、
其偽學邪誕ノ本體ヲアラハスヲ聽ケ、先ツ徂徠ガ、使番ト云役無用ノ役也、摠ジテ今ノ世ハ諸役共ニ器量ノ人ナシナ
ド書シ、純ガ、天子ノ外ニ日本ニテ御ノ字ヲ用ルコト甚安也ト書シ、自己ノ了簡ヲ以、都テ御ノ字ヲ除キ去リ、是上ヲ
輕シ奉ルニ非ズ、潛安ヲ改メ、愚昧ヲ去ン爲也、讀ム人純ニ不敬ノ罪ヲ加ヘザレナドコトハリ書キヲシテ、老中目付
直參旗本ナド、悉ニ書テラシタリ、是等ハイカナルミダリゴトゾ、本性沙汰トハ思ハレズ、天下ノ政令國家ノ制度ヲ
モ、平日ノ口辭ニ門弟子ニ教戒スルハ何ノ爲ゾヤ、國ニ國法アリ、家ニ家法アリ、郷ニ入テサヘ郷ニシタガヘトノ教
ニ非ズヤ、況ヤ堂々タル天下ノ御法ニ於テヤ、其國ニ生レ其土地ニ住シナガラ、イカニ漢流ガ好物也トテ、云ヘバ
イハル、噫言カナ、使番ハ無用ノ役、諸役ニ器量ノ人ナシナドハ、何レヘ對シテノ言ニヤ、又御ノ字ノコトニ付テモ、
僭妄ヲ改メ愚昧ヲ去ン爲ナドハ、誰ヲ目アテテノ云テ分トカスル、斯ハ政道ヲサミシ、法令ヲ亂リナガラ、是ヲシモ
純ラガ罪ニ非ズトセンカ、畢竟我ハ我法ヲ用フナドノ戲文ヲヨミテ、ヨキコト思コミタル逆升人ノ申シ分、所謂人參
畑ケノ狼ト、同類ヲ遁ルベカラズ、夫レ禮者朝廷ヨリ定出サレテ、天下萬民貴賤上下ノ品ヲ亂ラザラシメンカ爲ノ法
也、ワケテ我國ニハ、御ノ字ノ有ルト無キトヲ以、尊卑品ヲワカツノ禮制トス、然ルニ天子ノ外ニ御ノ字ヲ用ヒザル
依ふるひ

ハ漢法也トテ、今公儀ノ通法ト成キタル御用ヲ用ト書シ、御所ヲ所ト書シ、出御還御ノ類ヲモ、出ト書シ、還ト斗書スベキカ、又御臺所ノ御ヲハヅシナハ、カイト庖厨ノ名目ニモ紛ラハシカルベク、御新造ノ御ヲ除キナバ、カク花御ノ小妓ニモ混ズベク、新宅新船ノ名ニモ差合ナルベク、御袋ノ御ヲ去ラバ、人ノ事トハ聞エガタカルベシ、其他城代奏者用人留守居中間臺所人ナト、云ハ、公私ノ役名イヅレカ差別アリトセン、差アタリ唐人流ニハ宜ク共、自國ノ通用ニ大差支ヘノ有ベシ、又今日ノ言葉ノ上ハ更ナリ、交通往答ノ書面ナトニ至迄、御ノ字ヲ省キ去リナハ、是又自他ノ差別ヲウシナヒ、ニ盲目突合ヒ同前、凡日本ノウチニ居住ノモノハ、ニ反的難澁至極ナルベシ、或ル人純ガ自筆ノ書翰ヲ所藏シタルアリ、是ヲ見ルニ彌御靜安被成御座等ノ文句アリテ、尋常ノ俗通ニカハリナシ、又彼ガ何方シヘ呈進シタル書記ヲ、辨道書ト名ツケテ上木セリ、其書ヲ見ルニ、常ノ俗用ノ御ノ字文談ニテ、御領解御記憶御工夫御疑惑御難儀等ノ御ノ字ヲ始トシテ、書中追々ニ御ノ字有コト八百バカリ、先キノ宛所ハノセザルユエ其名ヲシラズトイヘドモ、ヨモヤ 天子ヘ向ケ奉リテノ文通ニモアルマジ、左アランニハ、經濟錄ニハ御ノ字ヲアザケリサミシテ除キ去リ、辨道書ニハオビタマシキ御ノ字ヲ書入タルコト、是何ノ意ゾ、寔ニ尻ト口トニテモノ言フトハ此事成ベシ、コレニ付テ一話アリ、近キ頃一諸侯大津ヲ通行セラレシニ、土地ノ御代官石原君 稱清左衛門コレニ出迎ハル、ノ事有テ、御役名ヲ記シタル名札ヲ差イダサレゲルニ、先走リノ取締役人、コレヲ主候ニ執達スルトテ、大津代官石原某トヨミ上ゲケルニ、石原君コレヲキカレテ、大聲ヲ發シ、代官ニハアラス、御代官ナリトヨバ、ラレケレバ、取次役人ハ、公儀ヘ對シ奉リ、不敬ノ罪遁レガタク、其場ヨリ主候ノ暇ヲタマハリ、ニ追放サレシトゾ、是ハ私領所ノ代官ハ御ノ字ヲ付ケズ、唯代官ト唱フル處モアリケルユエ、口癖ニ成リ、ウカト御ノ字ヲ除キテヨミ上ケ、カ、ル越度ヲバ引イタシタルナリ、是我國ニハ御ノ字一字ノ有無ニヨリテ、輕重尊卑ヲ分ツノ禮法ト成リ來ルコト知ベシ、其ウヘニ猶モヲカシカリ

シハ、和名ノ御目付御使番ヲ、唐ノ例ナリトテ御ノ字ヲハヅシ、目付使番トバカリ書タレドモ、其目付使番ハ唐ノ例カ、唐名カ、御ノ字ハ唐風ニ除キ去リ、役名ハ和風ノマ、ニテ用ヒタルモイカ、トテモノ事ニ丸マ、ニ唐名ニシテ、使番ヲ介人トモ書キ、老中ヲバ執政、目付ヲバ簡較ナド、モカ、バ書ベキニ、ドチラ付カスノ其書キブリハ、師匠ナレ徂徠ガ南留別志ニ云タル如ク、唐ニモ着カズ、日本ニモツカズ、チクラガ沖ニ漂ヒタル書ザマト云ベシ、其又徂徠モ儀ノ名ヲ替ヘンコヲ書キシハ、同ク是チクラガ沖ノ漂流仲間ナルベシ、シカノミナラズ、御ノ字ノセンサケダテノミニシテ、其他ノ事ニハ猶不都合ノ事アリ、自分ノ名ノ彌右衛門ハ、漢風ニテハヨモアルマジ、假令ツノ名ハ日本ニ隨ガフトモ、御ノ字ノ謂レヲ述テ、僭妄愚昧ナド、戒シメ改正スルホドノ存ジ付ナラバ、何トテ庶人ノ浮浪人トシテ、右衛門ノ官名ヲ私ニハ侵セシヤ徂徠ガ莊右衛門モ同シク之ニ類ス、官名モ亦天子ヨリ任ゼラレタルモノニシテ、ワガ私ニ名ノル^ニベキコトナラネド、足利季世ノ亂逆ヨリ此カタ、天子將軍ノ武威モ行ハレズ、諸侯各割居シテ玉法ヲ猥リ、公儀ヲ蔑ニシ、位官階級法律モ廢頽シ、四方ノ武人、君トナク臣トナク、自分免許ニ受領シテ、國名ヲヨビ、官名ヲ名ノリシヨリ、無法不當ノ俗習ト成來レル由ハ、知ザルコトハ有マジキニ、甘ンジテ時俗ノ流弊ニ落入ナガラ、シカツベラシク御ノ字穿鑿モ事ヲカシカラズヤ、尙且件ノ漢風流ノ意味ヲ以、コレヲ他事他物ニモ推及ボシナバ、只ニ御ノ字斗ノコニ限ルベカラズ、朱明ヨリ前ノ制ニ隨ント思ハ、ヤロウアタマヲ擽髮ニセヨ、ニ韃清以後ノ制ニシタガハント思ハ、芥子坊主アタマガ相應ナルベシ、笠ハ帽子ニ替ヘ、草履ハ革沓ニ改メ、衣食住言辭應接トモニ、一切ブチマダラニ成ザルヤウ仕直シテ、唐人ノ人別帳ニ入ルコソヨケレ、左ナキニ於テハ、彼源三位入道ニ射取ラレタリシ^ニ禊ト云化物ニモ似テ、紛ラハシカルベシ、是ヲノコニツキテ又一笑談アリ、或ル儒士ニ佐竹文介ト云モノ、其隣人ト談話ノ折カラ、云々ノコニヨリテ出役スルノ由ヲ云ケルヲ、文介キ、咎メテ、俗談平語ノ國風トハ云ナガラ、シツヤクト云ハ、言ベシ、デヤクト音訓ニ取交ヘ

依ふるひ

タルハ^{二四ウ}アマリナル俗習、キ、ニクシト云ケルニ、隣人コレニ對ヘテ、イカニモ國俗音訓ノ取マゼヨミヲ、重箱ヨミ湯桶ヨミナド、モ云ヘバ、漢風ヨミトハ相違モ有ベシ、去ナガラ夫ニ付テノ不審アリ、先生ハ何トテ苗字モ名モ彼ノ取交ゼヨミニハ付ラレシゾ、是モ俗習ナラヌヨミカタニヨマバ、サチクブンカイト歟、スケダケフミスケトカ有タキモノニ非ズヤト、詰リ問ケレバ、先生ハ一句ノ返答モデキズ、閉口シタリシトゾ、議ニ他人非、不如正自己之非トハ此事也、又彼ラガ存生ノ前後ナルベシ、其頃時ヲ得テ、將軍家ノ盛寵ヲ蒙リシ儒官ノ人々ノ勸メ奉リ、禁中ナラデハ經營セラレザル御門ヲ新クニ取建ラレ、殿中モ大方漢風造リノ御住居向ト成カハリシヲ、御代替リノ明君御移徒早々、他事ハ閣カセラレ、先ツコノ門ヲ破却スヘキ旨ノ、台命下リシヲ、時ノ執政家諫メ奉テ、御引移三日ヲモ經ザルニ、先君ノ仕置カセラレシ御門ヲ改革有シコト、イカ、成ベキ由ヲ申上ラレシニ、件ノ門ハ唯禁内ニ限レルモノナルヲ、造營アリシハ先代ノ過失也、其過失ヲ知ナガラ、一日オクハ一日ノ非ヲカサヌルノ理ナレバ、片時モ早ク是ヲ取り除クベシトテ、即時ニ取拂ハセラレ、尋テ殿中漢風^{二五ウ}ノ結構ノ分ハ、悉ク復古改正セサセ玉ヒシトゾ、^{二六ウ}君保明 是ヲノ光景ヲ思ヒ合スルニ付テモ、昔ヨリ儒生學徒ノ新法ヲ計較テ、仁義ヲ充塞シ、朝野ヲ亂リ、民心ヲ荼毒スルコト少カラズ、漢文ノ張湯桑弘羊、神宋^{二七ウ}ノ王安石昌惠卿ヲガ徒是也、利口ノ邦家ヲ覆シ、佞辨ノ社稷ニ禍スルノ根本、可憚、實ニ是王者ノ放徒、大僻不赦ノ罪人、被鞫モ長生シテ此世ニ在ラバ、其自然ヲ得ザルノ黨類ナルベシ、見ヨ、商鞅李斯ガ苛酷ノ新政モ、一旦ハ用ヒラレタリトイヘ、未遂ニ何ノ奇特カアル、一人ハ車裂ニセラレ、一人ハ三族ヲ刑セラレ、蘇晋張儀ガ合從連衡ノ遊説モ、果シテ後ニ何ノ功業ヲカナセン、大骨折テ鷹ノ餌ト成リ、ツイニ天下ヲ他人ノ有トス、約ル處、君ニ禍ヲ釀シ、民ニ艱苦ヲ與ヘ、己カ身ヲ害スルノ外ニ出ズ、或ヒハ四方藩邸ノ儒臣、志ヲ得テ一時登庸セラレシモ、多クハ禁錮幽閉放逐ニ、其終リヲ能セザルノ徒モ亦イクバクゾ、此頃一書ヲ閱セシニ、近世ノ學者ノ

舉動ヲ批評シタルモノアレハ、事ノ因ニ依テ其一ニ事ヲ抄出シテ以、後來ノ警戒トス、其文ニ曰、曩歲、一友人設酒席^{二五ウ}、糾^{二五ウ}傷政、約各言^{二五ウ}所畏、無^{二五ウ}理者罰、有^{二五ウ}云^{二五ウ}畏^{二五ウ}權貴者、有^{二五ウ}云^{二五ウ}畏^{二五ウ}富人者、最後一人云、天下之可畏者極夥矣、而其中尤可畏者、儒之狡黠奸惡者也、余就詰其故、曰、戰國之間、秦儀范蔡李斯之徒、流毒天下者、孰非讀書之子、且就趙宋一代而論之、丁謂王欽若王荊公章惇之徒、往々禍社稷人民者、孰非讀書之子、云々、天地之間、可畏者極夥矣、蜂蠱之毒可畏也、虎狼之搏噬可畏也、鈎吻野葛之毒可畏也、魍魎魍魎之祟可畏也、而四者之中、尤可畏者、魍魎魍魎爲^{二六ウ}甚、以^{二六ウ}善變^{二六ウ}其^{二六ウ}嘴臉^{二六ウ}之故也、雖^{二六ウ}然魍魎魍魎之技止^{二六ウ}此耳、若^{二六ウ}當^{二六ウ}今^{二六ウ}姦黠^{二六ウ}之儒^{二六ウ}、其^{二六ウ}變^{二六ウ}幻^{二六ウ}更^{二六ウ}甚^{二六ウ}於^{二六ウ}魍魎^{二六ウ}、而其^{二六ウ}技^{二六ウ}又^{二六ウ}極^{二六ウ}夥^{二六ウ}矣、所謂^{二六ウ}技者何、非^{二六ウ}文章^{二六ウ}經學^{二六ウ}之謂^{二六ウ}也、種々^{二六ウ}之惡業^{二六ウ}、似^{二六ウ}光棍^{二六ウ}趕蛋^{二六ウ}之爲^{二六ウ}者^{二六ウ}也、世間^{二六ウ}喧傳^{二六ウ}、點^{二六ウ}儒^{二六ウ}撰^{二六ウ}角力^{二六ウ}帖子^{二六ウ}之日、以上^{二六ウ}下^{二六ウ}其名^{二六ウ}、挾^{二六ウ}制^{二六ウ}愚人^{二六ウ}、而^{二六ウ}蠶^{二六ウ}奪^{二六ウ}星金^{二六ウ}、其^{二六ウ}不^{二六ウ}出^{二六ウ}星金^{二六ウ}者^{二六ウ}、置^{二六ウ}其^{二六ウ}字^{二六ウ}號^{二六ウ}於^{二六ウ}下^{二六ウ}等^{二六ウ}之^{二六ウ}最^{二六ウ}下^{二六ウ}焉、其^{二六ウ}毒^{二六ウ}整^{二六ウ}之^{二六ウ}慘^{二六ウ}也、比^{二六ウ}蜂^{二六ウ}蠱^{二六ウ}更^{二六ウ}甚^{二六ウ}、嗚呼^{二六ウ}可^{二六ウ}畏^{二六ウ}哉、是非^{二六ウ}者^{二六ウ}天下^{二六ウ}之^{二六ウ}公^{二六ウ}也、是^{二六ウ}曰^{二六ウ}是^{二六ウ}、非^{二六ウ}曰^{二六ウ}非^{二六ウ}、謂^{二六ウ}之^{二六ウ}直^{二六ウ}、斯^{二六ウ}民^{二六ウ}也、三^{二六ウ}代^{二六ウ}之^{二六ウ}所^{二六ウ}以^{二六ウ}直^{二六ウ}道^{二六ウ}而^{二六ウ}行^{二六ウ}也、點^{二六ウ}儒^{二六ウ}輩^{二六ウ}以^{二六ウ}一^{二六ウ}人^{二六ウ}之^{二六ウ}愛^{二六ウ}憎^{二六ウ}、顛^{二六ウ}倒^{二六ウ}天下^{二六ウ}之^{二六ウ}是非^{二六ウ}、謂^{二六ウ}之^{二六ウ}鉛^{二六ウ}刀^{二六ウ}爲^{二六ウ}銛^{二六ウ}、鑊^{二六ウ}錐^{二六ウ}爲^{二六ウ}鈍^{二六ウ}、謂^{二六ウ}之^{二六ウ}砒^{二六ウ}砒^{二六ウ}爲^{二六ウ}玉^{二六ウ}、眞^{二六ウ}玉^{二六ウ}爲^{二六ウ}石^{二六ウ}、點^{二六ウ}儒^{二六ウ}之^{二六ウ}生^{二六ウ}、何^{二六ウ}不^{二六ウ}直^{二六ウ}耶、既^{二六ウ}已^{二六ウ}謂^{二六ウ}之^{二六ウ}點^{二六ウ}、何^{二六ウ}以^{二六ウ}責^{二六ウ}其^{二六ウ}不^{二六ウ}直^{二六ウ}耶、既^{二六ウ}已^{二六ウ}謂^{二六ウ}之^{二六ウ}儒^{二六ウ}、何^{二六ウ}以^{二六ウ}不^{二六ウ}責^{二六ウ}其^{二六ウ}不^{二六ウ}直^{二六ウ}耶、而其^{二六ウ}尤^{二六ウ}可^{二六ウ}責^{二六ウ}者^{二六ウ}、此^{二六ウ}文^{二六ウ}爲^{二六ウ}甚^{二六ウ}、尤^{二六ウ}可^{二六ウ}畏^{二六ウ}者^{二六ウ}、又^{二六ウ}此^{二六ウ}文^{二六ウ}爲^{二六ウ}甚^{二六ウ}、云々、魍魎魍魎亦^{二六ウ}固^{二六ウ}善^{二六ウ}變^{二六ウ}幻^{二六ウ}矣、其所^{二六ウ}以^{二六ウ}變^{二六ウ}幻^{二六ウ}者^{二六ウ}、以^{二六ウ}欲^{二六ウ}免^{二六ウ}天下^{二六ウ}之^{二六ウ}謗^{二六ウ}也、然^{二六ウ}則^{二六ウ}善^{二六ウ}變^{二六ウ}之^{二六ウ}名^{二六ウ}、未^{二六ウ}易^{二六ウ}遽^{二六ウ}知^{二六ウ}也、彼^{二六ウ}力^{二六ウ}帖^{二六ウ}子^{二六ウ}者^{二六ウ}、出^{二六ウ}於^{二六ウ}此^{二六ウ}輩^{二六ウ}之^{二六ウ}手^{二六ウ}、自^{二六ウ}有^{二六ウ}天下^{二六ウ}之^{二六ウ}公^{二六ウ}儀^{二六ウ}在^{二六ウ}焉、因^{二六ウ}是^{二六ウ}一^{二六ウ}責^{二六ウ}之^{二六ウ}、則^{二六ウ}黨^{二六ウ}中^{二六ウ}彼^{二六ウ}此^{二六ウ}互^{二六ウ}相^{二六ウ}嫁^{二六ウ}禍^{二六ウ}、云々、夫^{二六ウ}同^{二六ウ}心^{二六ウ}戮^{二六ウ}力^{二六ウ}而^{二六ウ}爲^{二六ウ}之^{二六ウ}、及^{二六ウ}其^{二六ウ}負^{二六ウ}天下^{二六ウ}之^{二六ウ}謗^{二六ウ}、甲^{二六ウ}云^{二六ウ}乙^{二六ウ}所^{二六ウ}爲^{二六ウ}也、乙^{二六ウ}云^{二六ウ}甲^{二六ウ}所^{二六ウ}爲^{二六ウ}也、彼此^{二六ウ}相^{二六ウ}嫁^{二六ウ}禍^{二六ウ}、豈^{二六ウ}丈^{二六ウ}夫^{二六ウ}之^{二六ウ}所^{二六ウ}爲^{二六ウ}哉、云々、魍魎魍魎非^{二六ウ}不^{二六ウ}善^{二六ウ}變^{二六ウ}幻^{二六ウ}也、然^{二六ウ}特^{二六ウ}變^{二六ウ}其^{二六ウ}嘴^{二六ウ}臉^{二六ウ}耳^{二六ウ}、若^{二六ウ}點^{二六ウ}儒^{二六ウ}之^{二六ウ}輩^{二六ウ}、則^{二六ウ}善^{二六ウ}變^{二六ウ}其^{二六ウ}心^{二六ウ}與^{二六ウ}言^{二六ウ}、莫^{二六ウ}有^{二六ウ}所^{二六ウ}恥^{二六ウ}愧^{二六ウ}也、比^{二六ウ}之^{二六ウ}於^{二六ウ}魍魎魍魎^{二六ウ}、豈^{二六ウ}不^{二六ウ}更^{二六ウ}可^{二六ウ}畏^{二六ウ}哉、吾^{二六ウ}儒^{二六ウ}之^{二六ウ}教^{二六ウ}、主^{二六ウ}忠^{二六ウ}信^{二六ウ}者^{二六ウ}也、未^{二六ウ}有^{二六ウ}詐^{二六ウ}僞^{二六ウ}反^{二六ウ}覆^{二六ウ}、誇^{二六ウ}張^{二六ウ}爲^{二六ウ}幻^{二六ウ}、若^{二六ウ}是^{二六ウ}之^{二六ウ}術^{二六ウ}也、抑^{二六ウ}紅^{二六ウ}教^{二六ウ}喇^{二六ウ}嘛^{二六ウ}之^{二六ウ}法^{二六ウ}乎、將^{二六ウ}亦^{二六ウ}光^{二六ウ}棍^{二六ウ}趕^{二六ウ}蛋^{二六ウ}之^{二六ウ}乎、儒^{二六ウ}而^{二六ウ}若^{二六ウ}是^{二六ウ}、甚^{二六ウ}可^{二六ウ}怪^{二六ウ}也、云々、其^{二六ウ}友^{二六ウ}ヲ^{二六ウ}ミ^{二六ウ}テ^{二六ウ}其^{二六ウ}人^{二六ウ}ヲ^{二六ウ}知^{二六ウ}ル^{二六ウ}ト^{二六ウ}カ、此^{二六ウ}文^{二六ウ}ヲ^{二六ウ}見^{二六ウ}テ^{二六ウ}其^{二六ウ}輩^{二六ウ}ノ^{二六ウ}行^{二六ウ}狀^{二六ウ}ヲ^{二六ウ}知^{二六ウ}ニ^{二六ウ}堪^{二六ウ}タリ、摠^{二六ウ}シ^{二六ウ}テ^{二六ウ}是^{二六ウ}ヲ^{二六ウ}儒^{二六ウ}生^{二六ウ}ノ^{二六ウ}活^{二六ウ}業^{二六ウ}ヲ^{二六ウ}ミ^{二六ウ}ル

依ふるひ

ニ、寄合坊主ノ宗論スルゴトク、朱子學ヲ貴ミ、古義ヲ言立テ復古ヲ唱ヘ、彼ヲ誹リ、是ヲ嘲リ、各其道ヲ道トシ、其學ヲ學トシ、治亂興廢令典得失ハ定例ノ論議、高慢道具ニハ素人感シノ雅樂ヲ談シ、周易ヲ説キ經濟録ニ述タル處ノ禮樂易道ノ無益ノ長文ヲ見テモ可知、空論ヲ尙ヒ、文史ヲ玩ヒテ、唯舌ヲ振り、唇ヲ鼓スルノミ、或ハ文事尺牘ノ答酬ニ理屈ヲネヂ合ヒ、穴ホヂリヲ競フノ筆戰ヲ事トシ、果ハマケズ魂ヲ主張シテ、確執絶交ニ至ルヲ見識名聞トスルノ屬ニテ、何一ツ仕出シタリト云所作モナク、徒ラニ白駒ノ隙ヲ費スノミ、箇様ノコトモニテ治國平天下ノ心術ハ扱ヲキ、修身齊家ノ眞似方モ覺東ナシ、只是名教ヲ擾カキグルノ徒ト云ベキノミ、サレバ彼ラガ本店トスル漢士ニモ、儒者ノ天下ヲ治メタルタメシヲ不聞、却テ世ヲ亂シ、民ヲ誣タルモノ、多キコトハ、前條ノ手續ヲミテモ可知、マシテ日本神武ノ國風ニ於ルヤ、雅樂ニテ世ヲ治メタル國主モナク、周易ニテ亂ヲ平ゲタル大將モナク、學者ノ力ヲカリテ天下ヲ取リタル君ハ猶以ナシ、其ナキ子細ヲイカニト云ニ、孔子モ時ニ遇ズトハ、是取繕ヒノ言葉ニセテニテ、孔子孟子ノ識量タリトモ、君ニ臣トシ事ルヨリ上ノ望ミニ出ズ、治世經濟ノ料理獻立ハ利口ニヨクト、ノヒタレトモ、之ヲホトコシ用フルニ期ナクシテ、流浪遍歴ノ一生涯ナリシヲ見テモ可知、サレバ唐ニモ日本ニモ、武威ヲ以儒者ヲバ制スレドモ、儒道ヲ以武道ヲ制シタルタメシナシ、漢ノ高祖ハ馬上天下ヲ得、安イソクノ詩書ヲ用ヒント云ヒ、宣帝ハ漢家自制度アリ、何ゾ必シモ、唐虞ニ效ント云ヘリシモ、是同意ナリ、僕崎陽ノ御代官所ニ勤務セルコト十餘年、彼ノ地ノ寺社聖堂ハ悉支配下ニテ、是ラノ輩ノ進退差引ヲ司リシコト其數ヲ知サリシガ、寺社長袖ノ向キノ世事ニ不案内ナルハ、制外ノ身ナレバ左モ有ベシ、學者ノ徒モ亦同ク公私ノ掛引ニ疎ク、萬事ニ付テ不馴ナルコト、俗人ニハ劣リタリ、サレドモ農商ノ上ニモ立ツ身大レバ、其心情ハ高上ニテ、ヤ、モスレバ利害ニ戻リ、強情ヲ募ルナドノコマ、有ケレバ、餘計ノ口ヲキ、テ、教諭納得サセシコトモ不珍、菟ニ角學者ニハ一、拍子拔ケタルモノ多シ、天保申年西國郡代鹽谷君御役替ノ跡ノ支配所、長崎御代官ヘ預ケラレ、郷

村受取ノ節、僕ラモ豊後ノ日田ニ在陣シタリシカ、同所ノ儒者「廣瀨求馬ハ、攝西ノ一人トモ云ハレシ博學名譽ノモノ也ケレバ、先支配ヨリ苗字帶刀ヲ差許オカレタルニヨリ、跡支配ニ於テモ、右ニ準ズルノ取扱ヒニ預リタキノ旨、申シ繼キニ相ナリ、然ルニ御代官ノ下向モ無之、其手數ニモ至ラザリシ先ニ、求馬ハ苗字付ノ名札ヲ棒ケ、大小ヲ帶シテ、陣ノ玄關先キニ來リ、案内ヲ申シ入ケルニヨリ、其時ノ元々手代中田海藏ヨリ、入來ノ趣意ヲ問ハセケルニ、支配替リノ歡トシテ參向ノ旨ヲ答ケルニヨリ、先ツ海藏ヨリ玄關ノ應對ヲ差下メ、小使部屋ヘ通シオキテ申談ジケルハ、其方身分取扱ヒノコトニ付テハ、先支配ヨリノ申送リモ有之、御代官ノ下向ヲ待テ、其事ヲ計ラハント思フ處ニ、今日推參ノ結構、苗字ヲ名ノリ、帶刀シテ、支配ノ玄關ニ案内スルコト、不禮不敬ノ致方ト云ベシ、早々立カヘリ、御代官ヨリ身分格合ニノ免許ヲ蒙リテ後、カサネテ入來可致ノ旨申シ達シケルニ、求馬ハ菟角不得心ノ有リサマニテ、格合ニハ先支配ヨリノ仕來リナド、何かト愚意ヲ申張、利害ノ旨ヲ承引セザリケレバ、海藏モ不得止聲ヲアラ、ゲテ、數百人ノ門弟子ヲ教授スル儒者ノ身分ニモ不似合、是式ノコトヲモ辨ヘ知ザルハ愚痴蒙昧ノ中ニシ條トヤ云ベキ、古ヘノ道ヲ學ンヨリハ、先ツ今日人間有用ノ道ヲ修行シナバ、斯斗ノ道理ハ分明ナルベキ也、斯テモ猶強情ヲ張ントナラバ、定法ヲ以、刀ヲ取上ケ、不敬ノ罪ヲ糾スベキカト有ケルニ、始テコレニ驚伏シテ、誤入タルノミナラズ、村役人ヲ頼ミテワビ入レ、漸クニキ、濟ミヲ受タル後、數十日ニシテ格合免許ヲ賜ルコトヲエタリ、又近頃或大諸侯東都ニテ一儒者ヲ召抱ヘラレ、其候入國ノ扈從ヲ命セラレシガ、道中諸家方ヨリ差出サル、處ノ問候ノ藩士ニ、應接スル役ノ欠有ケルニヨリ、假リニ其儒者ニ代ラシメ玉ヒシガ、此儒者筆ニ華ヲ生ズルノ文才ハアリトイヘトモ、世事ニハトント不器用ニシテ應對ノ度ゴトニ、ハナハダ都合ノコトノミ有テ、役分ノ勤マルベクモアラザレバ、外役人ニ引カエラレテ、不首尾ダラノコト共ナリトゾ、是ラノ事ハ眼前ニ見聞スルトコロノ學者ノ風ナリ、甚當世ニウトキヲ知

依ふるひ

ベシ、僕アル時一儒生ニ、鎌倉時代ノ將卒ノ成敗得失ヲ談ゼシニ、一事モ知ラズ、試ミニソレヨリ以前ノコトヲ談ジケルニ、猶シラザレバ、國史ヲバ見ザルカト尋ネケルニ、彼ノ邦ノ歴史類ニ於テハ、恐ラク見ザルトコロナシトイヘドモ、日本ノ書ハイマダ見ザレバ、不案内ニテ候ト、公然トシテ答ヘシニ、興「モサメハテ、口ヲツグミタルコトモアリキ、斯レバ世ニハ日本紀一冊見ザル日本ノ學者モ有ル事ゾカシ、伊勢ノ貞丈ガ著セル四季艸ト云書ニ、徂徠ガ源平盛衰記ニ女房男房トタハフレカキシタル根ナシコトヲ見アタリテ、古ハ女房ト云ノミニアラズ、男房ト云ノモ有リト、云ヘリシヲ笑ヒテ、狄生ハ隣國ノコトヲハ委ク知タレト、我居住スル日本ノコトニハ甚ウトキ人ニテアリシユエ、タマノ男房ト云ヲ見ツケテ驚キタル也トアリシモ氣ノ毒千萬也、借又近世儒者ト稱スルモノ、詐術驕僂、カゾヘアグルニイトマナシトイヘドモ、思ヒイヅルマ、ニ、チトハカトリ摘ミテ、コレヲ譴責シ、コレヲ裁判セン、蓋シ三子ノ外ノ人々ニ對シテハ、強チ其罪ヲ尤ルノ本意ニハアラギリシカドモ、元來同境內ヨリ發リシ出火ナレバ、終ニハ一廊中ノ類焼、其非訓通火非國ヲ顯ハサ、ルコトヲ得ズ、コレ又時運ノ然ラシムル、勢止事ヲエズ、氣ノ毒ナガラ共ニ連坐ノ難ノ免レガタキヲ如何セン、伊藤仁齋ハ都下ノ花街ヲ過ルトキ、娼家ノ婢女ニ引込マレ、響應ニアツカリテ、其花街娼家ナルコトヲ知ラズ、數人ノ妓女ヲミテ妓女ナルコトヲシラズ、庖厨ヲ觸ヒテ美酒佳肴ノ多ク供ヘアルニ驚キ、是財ヲ輕ンジ、徳ヲ敷キ施テ路人ニ及ヘル也ナド歎テ、後ニ門弟ニ語タルヨシ、一山伯養ハ篤學慎行、當世中江藤樹ニモ比セラレシホドノ學者也シガ、平生上下ヲ着スルコトヲ好ミ、隣家ノ井戸替ノ手傳ニモ、上下ヲ着ナガラ人夫ニ打交リ立働キタリトゾ、三宅尙齋ハ破屋ニ住居シテ、雨天ゴトニ雨漏ケレバ、ミツカラ屋上ニ升リテ修覆ナシケルニ、其身大兵ノ肥滿人也ケレバ、蹈回ル處ノ屋根却テ多ク破壊セントゾ、肥後ノ鍛茂八郎大坂ニ出テ積善ヲ訪タルトキ、冬也シガ薄羽織ヲ着シケレバ、怪ミテ其子細ヲ尋ケルニ、國元ヲ立出ルトキ、此羽織ニテ出シト答ヘケル

由、取ワケ仁齋ナドハ德行ノキコエモアリ、路ニ追剝ニアフテコレヲ教諭シ、或ハ縉紳家ノ珍饈サレシ五色ノ一石ニ、龍ヲ生ズルノ前見アリテ、之ヲ原野ニ捨サセ、又ハ爲狐所魅ヲ退治セシメシナト、世ニモキコヘタル大儒ニ在ナガラ、現在其身ノ居住セル土地ノ花街青樓ヲモ辨ヘシラザル不案内ハ、盲人ニモ劣レリト云ヘシ、其他上下ノ禮服ナルコトヲ知テ、儒業ノタメニ着用スルハ左モ有ベシ、井戸替ヘニモコレヲ用ヒテ、不相應ナルコトハ不及論、破屋上ニ升テ大兵人ノ踏タテナバ、イヨク屋根ハ破壊ニ及ブベク、夏ハ夏ノ服ヲ用ヒ、冬ハ冬ノ服ヲ用フルコトナドノ「ハ、三歳ノ小兒モヨク之ヲ辨知ス、イカナレバ斯迄ニ愚痴暗ノ甚シキ、菽麥ヲモ辨ゼズトヤ云シ、去ル戰國ノ一諸侯軍學師ヲ召抱ントテ、休息所ニ食膳ヲ賜ハリシガ、其モノ汁掛ケ飯ニシテ一口味ハヒ、再ヒ飯ニ汁ヲ掛ケ直シタリシヲ、侯透見セラレテ帷幕ノ内ニ計ラグラシ、天下ノ治亂勝配ヲモ瞭察スベキ軍師ノ、些細ナル一椀ノ内ヲダニ計リ得ザル者ガ、何ノ役ニカ立ベキトテ、早ニ追出サレシトナリ、儒者モ治世安民ノ經術ヲ旨トスル身ニアリナガラ、右ノ如キ鼻ノ先ノコトヲモ不知ナドノウツケモノガ、何事ノ用ヲカナシ得シ、猶是ラノ外ニモ、三宅希賢ガ三十餘年過タル親ノ喪ヲツトメテ、名聞ヲ釣ントシタル造リ賢人、中根東里ガ路傍ノ樹下ニ醉倒レタル父ニ、持出シノ蚊帳ヲツリ掛ケテ、孝義ノ名ヲ賣ントシタル偽善行、良野華陰ガ養犬ノ爲ニ驅使セラレ、剩ヘ負腹立テ、他人ノ犬ヲ打タ、キタル亂燥狂態、平野金華ガ猫ヲ十八匹養タル痴呆、婦妻ノ衣服ヲ假着シテ、君前ヘ推參シタル惡滑稽、祇園南海ガ雷好ト云ヒタテ、觀雷亭ノ記ヲ作りテ、世間ヘ吹聴シタルコケ威シ、那波魯堂ガ放蕩無賴、益田鶴樓ガ一生涯ノ吞倒レ、高野蘭亭ガ、鬪體盃ノ惡物數奇、山崎闇齋ガ算用知ラズ、會津侯ノ葬禮ニ棺廓ヲ巨大ニ積リ損ネタルヲ後悔モセズ、城門ヲ打壞ラセテ送り出セシ無法モノ、一山伯養ガ替者佐々木玄信ニ欺カレテ、妻族ノ系圖ヲ物ガタリシヲ眞實ト心得、聞書シタル晦盲闇愚、井上金峨ガ人寄セ講釋ニ木戸錢ヲ食リ溜メテ、鸚鵡ノ汚名ヲ創タル恥シラス、藤井懶

齋方苗字ノ井ヲ省キテ藤ノ草冠ヲ除テ、勝頼齋ト名ノリシヨリ、漢風病ノ逆上仲間ニ傳染シテヨキトシ、夫ヨリ苗字ノ本躰ヲ失ハセタル無分別モノ、是等ノ輩迄一々批判ヲ加ヘンモ、紙筆ノ費ナレハ略之、一書ニ、或人蒲生何ガシニ太田錦城ガ學文ヲ問シニ、彼レハ書林ナリト答フ、是ハ程子ガ所謂書不_レ必_レ多看、要_レ知_レ甚約、多看而不_レ知其約、書肆耳、トイヘルト同日ノ談也、ト云フ意味ヲ書載シタルモノナリト見エ、又晩年少女ヲ畜ヘ、陰虛火動ノ症トナリテ、天壽ヲ縮メタルコトナドモ世ニ聞エタリ、經學自慢ノ大先生ニハ、甚ク淺智無分別ノ身ノ成リユキナラズヤ、又近ク文化年間ニ東武高名歴々ノ儒林仲間、料理店ニ集會ノ折カラ、亂醉狂言ノアマリ、陰囊鏡ベヲシテ興ヲ催シ、其コロノ大評判ニ成タルコトモ有リキ、サレバ道德仁義ヲ以己ガ任トシ、世教ヲ維持スルヲ以身ノ職トストコソキ、タルニ、今ヤ冠履處ヲ異ニシ、頭足相換リ、イヅレ劣ラヌ藝苑ノ奴隸、雅筵ノ牽頭、寔ヤ古_レ蒼韻文字ヲ造リテ鬼夜哭ストアリシモ、定メテ是ヲノ輩ノ爲ニ哭シタルモノナルベシ、共ニコレ一蓮託生ノ相住居、正路ヲ取失ヒ、邪道ニ迷ヒ入り、異行異躰ノ坐臥行事ヲ以テ、匹夫匹婦ノ耳目ヲ新タニスルヲヨキコト、コ、ロエタル、天地間ノ不用人、賣名射利ノ曲學者流コソハ歎カハシケレ、コレヲシモ聖賢ノ道ヲ修行スルノ徒トイフベキ歟、皆是追放以上ノ罪人タルベシ、近松門左衛門カ院本ニ云ヘル、風雅デモナク、晒落デモナシトハ、是之ヲ云ベシ、彼三子者モコレヲノ同中ニアリナガラ、掛ケ構ヒモナキ手代ノ田地ニ、左斗ノ毒ヲ書流シタルコト、返ス_レモ奇怪也、願フニ此輩ヲ求馬ガ如ク手代ニイヂメラレ遣恨ヲサシハサミ、犬糞ニテ仇ヲ取ントスルノ族ナルベシ、理リナル哉、但徠ガ死期ヲ見ヨ、平生ノ賢人ブリモ屁一ツノ正躰ヲ顯ハシ、熱狂亂心、水火ヲ避ケズ、妄罵謔語ノモガキ死ヲナシ、_{三子}弟子トモコレヲ恥テ、外人ヲ通ゼズ、或ハ良死ニ非ルノ惡評モアリシゾ、又純ガ身分ノ業曝_レヲ見ヨ、彼ガ死後ニ經濟錄ノ著述世上ニ流布シタリシガ、品々公道ヲ乖亂セル箇條少ナカラズ、容易ナラザル大不敬ノ罪科キハマリ、彼ガ埋リタル處ノ墓所ヲ

ホリ崩シ、死骸ヲ引出シ、重キ刑罰ニ行ハレタルヨシ、世ノ人々之ヲ墓覆シノ御仕置トハ申シツタヘケル也、誠ヤ下流ニ居テ上ヲ誦ル者ヲ惡ムト云ハ是也、一人之ヲ唱ヘ、萬人之ヲ和スルトキハ、亂ノ本也、是猥リニ時務ヲ誹謗シ、我才幹ヲ人ニ銜ハントシタル驕慢心ヨリ、却テ死ニ恥ヲ後世ニ殘シ傳ヘタル大罪人、天罰思ヒ知ズンバ有ベカラズ、又只此事ノミナラズ、存生中ノ行跡ヲモ見ヨ、其生質ノ野卑貪戾、嗜食ノコニ至ルマテモ、意智ノ汚ヲ思ヒヤルベシ、享保ノ執政本多侯_{中務}ヨリ賜リタル乾海參ヲ喰足ズ、腐物ト名ヲツケテ、餽ルニ腐物ヲ以ス、是禮ノ廢也ナド、コト_ノシダニ云贈リ、再ビ之ヲ貪リ取テヨキトス、諸侯ヨリ賜モノト云ヒ、干物ト云ヒ、何ゾヤ腐物ノ贈モノ有ベキ、孟子ニ所謂飲食之人、則人賤之トアルノ類、巧佞無慙ノシレモノ、一事_ニヲ以萬事ヲ可_レ察、簡様ノ鄙劣心ヨリ、己カヒガミ根性ニ思ヒクラベ、毛見先ニ珍膳佳肴ノモテナシ有リナド、人ノ嘶ヲ聞カザリテ口ニ涎ヲ流シ、ヨキ加減ナルヲシ付推量ヲ書ナラベ、_{三子}饗發ノ本躰ヲアラハシタルモアサマシキ_{饗發}、_{三子}韻會曰、食_ニ嗜飲食_ニ曰_ニ一_ニ、左傳文_ニ公_ニ十八年_ニ、_{三子}非政ノ政事ヲ談シ、不經濟ノ經濟ヲ錄シナガラ、何ヲ以テカ政談ヲ名トシ、經濟ヲ名トスベキ、不當僭上、_{三子}ニ表題ヲ削去テ、永ク世ニ公ニスルコトヲ禁ズルコソケレ、同ク儒者ノ名ニヨベトモ、川谷貞六ナトハ我國ノ眞儒トモ賞スベシ、室鳩巢カ駿臺雜話ヲ難ジテ、「生レコシ甲斐アル國トシラネバヤ、異浦ニノミセラフアマ人」、コト浦ニヒラス徒多キ中ニモ、但徠ガ自身ヲ東夷物茂卿ト書シ、或ハ平維章ガ東海談ト云筆記ニ、但徠ガ書ケル孔子畫像ノ贊ニ、癸卯之夏日本夷人物茂卿稽首拜手謹題ト記セシヲ、嘲ケリ驚カシタルヨシナドモ、石原正明ガ年々隨筆ニ見エ、又純ガ辨道書ニモ、品々我國ヲ賤シメ輕シタル、不埒至極ノ書ザマナドモ見ウケタリ、寔ニ是師弟同群、カクアリガタキ御國ニ生レナガラ、好シク異域ノ狄人戎奴トナル、人面_ニ獸心_ニ齒牙_ニ掛ケルモ忌ハシカリ、僕平常日本人ノ大明大清又ハ中夏中國ナド書キタル冊子ヲ見レバ、忽チ嘔吐ヲ催サントス、況テ是ヲ東夷夷人ニ於テハ沙汰ノ限

リ、愛想モ好想モ盡ハテタリ、彼ノ孔子ヲ以大將トシ、孟子ヲ以副將トシテ、我國ヲ攻キタリナバ、彼レヲニ左袒シテ、日本ニ弓ヲ引クノ凶黨ナルベシ、但シ三子ノウチニテハ積善ガ罪ヲ輕シトスベシ、服部南郭モ但徠ガ門ヨリ出タレドモ、唐土ヲ稱スルニ海外彼邦等ヲ以テシ、嘗テ中華中國ヲ稱セズトカ、東夷夷人ノ顛狂モノトハウラ腹ノ心得カク、左モアリタシ、宜ナリ此南郭ハ老子ニ所謂知者不レ言トノ言ヲ諒也トシテ、經濟ヲ談ゼズ、其故ハ世儒ノ經術ヲ以強ヒテ世ニ施ス時ハ、果シテ國ヲ誤ル類ノ多キヲ恐ル、ガユエトゾ、又三浦竹溪ガ吉田侯ニ仕ヘシ時、途ニ純ニ逢ケルニ、純出身ヲ賀シテ、近頃聞ク足下言聽レ道行ハレ、恭祝ニ堪ザルノ旨ヲ申シ述ケルニ、竹溪ガ答ヘニ、豈道ノ爲ニ仕ヘンヤ、唯食ヲ求メンガ爲ノミ也ト云ハレタルニヨリ、純ハ其挨拶ニ偶ノ音モ出デズ、鼻アカセラレタルマ、ニ立別レ」シトゾ、山本中齋方言ニモ、醜陋ノ小儒、雕蟲ノ詩人、世道ニ害アル勝テ言フベカラズト云シモ尤也、是等ノ人々ハ能ク物ヲ辨ヘ、掛ケ飾リナク世儒ノ骨髄ヲ打出シタル儒中ノ正道モノト云ベキ也、古之學者爲レ己、今之學者爲レ人トカ、俗諺ニ所謂鎗持鎗ヲツカハズ、辨當モチ辨當食ハズト云モ此道理成ベシ、猶彼ノ三書ノ事ニ付テハ記シ置タキ言ノ數々、濱ノ眞砂ノ限リアラネド、ツク／＼ホウシ盡ル期ナク、蘆ワケ小舟ノサハリアルコトモ有レバ、唯我カ地面ニ拘ハレルコトノミヲ論ヒテ、秃筆ヲトムム、コノ書ヲ覽ルノ君子コレヲ察セヨ、

イカゾカハ餘所ノ時雨ト見テヤマン、

身モスレギメノ名ニシヌルレバ」

後序

大凡御代官五十家に、出勤手代千人、不動手代千人、但徠が黨の醜口の發端より、百七十年の今に至まで、手代の總數幾千萬人なるべきに、誰一人彼等が謬言邪猜を説破たる手代のあらざるは、忍びてこれを云出ざる歟、忍びざれど

も黙止せしか、今や我儕友内藤光備君、一朝此事を憤激せしより、倭不留非の一舉事就て、魚目の玉に混ぜしを看顯はし、蕭艾の「蘭を素りしを摧折しは、實に百七十年の一人、幾千萬人の傑出、未發の確言、金玉の公論、嗚呼痛快なる哉、我も亦一河の同し流しを波で、頗る空谷留音の思に堪ず、呦々の鹿の友によりて美草を味はへるの甘心、何事かこれにしくべき、併是騏尾に跨て千里の盛觀を共にするの幸慶なる哉、

于時安政丙辰新涼

崎陽縣吏 金井紀俊 謹識

跋言

與狂人走者、狂名欲免得乎、雖然狂也、有笑者、有哭者、有怒者、有躍者、拔劍者、揮棒者、裸者、呼者、一々不可盡也、有攫欄狂者、于此奮然將擊我、我曰、彼狂也、不足角也、然察視其勢、必也害我焉、豈有坐見流血淋漓者哉、是余所以不憚狂名之不免而抗也、丙辰五月辛未、内藤光備書而記其後、

于時安政五年歲次戊午仲秋、鶴府城南麓松月亭南窓下、揮秃筆摸寫、

涼竹陣人 團 團